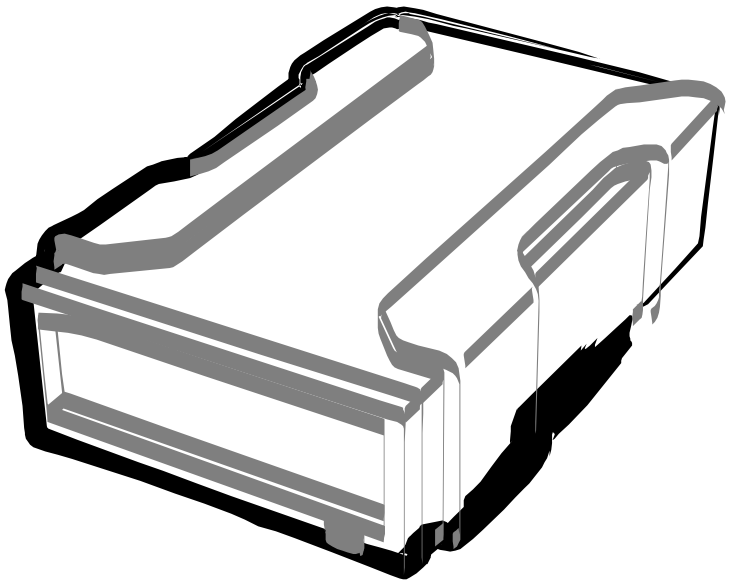
N8160-99
外付 RDX ドライブ

ユーザーズガイド



- 製品をご使用になる前に必ず本書をお読みください。
  本書は熟読の上、大切に保管してください。

はじめに

このたびは、N8160-99 外付 RDX ドライブをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

N8160-99 外付 RDX ドライブは、本体装置側 USB からの電源供給（バスパワー）により駆動し、RDX（Removable Disk EXchange）データカートリッジを挿入して USB インターフェースから使用する外付タイプのリムーバブルハードディスク装置です。

本製品の持つ機能を最大限に引き出すためにも、ご使用になる前に本書をよくお読みになり、製品の取り扱いを十分にご理解いただけるようお願い申し上げます。

商標について

Microsoft とそのロゴ、および Windows、Windows Server は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

RDX はタンベルグデータの登録商標です。
記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

注　意

この装置は、クラスＢ情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。　　ＶＣＣＩ－Ｂ

オペレーティングシステムの表記について

Windows Server 2012 R2 は、Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Standard operating system および Windows Server® 2012 R2 Datacenter operating system または、Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Foundation operating system の略称です。
Windows Server 2012 は、Microsoft® Windows Server® 2012 Standard operating system および Windows Server® 2012 Datacenter operating system または、Microsoft® Windows Server® 2012 Foundation operating system の略称です。
Windows Server 2008 R2 は、Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard operating system および Windows Server® 2008 R2 Enterprise operating system の略称です。
Windows Server 2008 は、Microsoft® Windows Server® 2008 Standard operating system および Windows Server® 2008 Enterprise operating system の略称です。
Windows Server 2003 x64 Editions は Windows Server® 2003 R2, Standard x64 Edition operating system および Windows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition operating system または、Windows Server® 2003, Standardx64 Edition operating system および Windows Server® 2003, Enterprise x64 Edition operating system の略称です。
Windows Server 2003 は Windows Server® 2003 R2 Standard Edition operating system および Windows Server®2003 R2 Enterprise Edition operating system または、Windows Server® 2003 Standard Edition operating system、Windows Server® 2003 Enterprise Edition operating system、Microsoft® Windows Server® 2003 Datacenter Edition operating system、および Microsoft® Windows Server® 2003 Web Edition operating system の略称です。
Windows 7 は、Microsoft® Windows 7 operating system の略称です。
Windows Vista は、Microsoft® Windows Vista operating system の略称です。
Windows XP x64 Edition は、Microsoft® Windows XP Professional x64 Edition operating system の略称です。
Windows XP は、Microsoft® Windows XP Professional operating system の略称です。

サンプルアプリケーションで使用している名称は、すべて架空のものです。実在する品名、団体名、個人名とは一切関係ありません。

ご注意

（1）　本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
（2）　本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
（3）　弊社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
（4）　本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
（5）　運用した結果の影響については（4）項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

© NEC Corporation 2016

このユーザーズガイドは、必要なときすぐに参照できるよう、お手元に置いておくようにしてください。「使用上のご注意」を必ずお読みください。

使用上のご注意～必ずお読みください～

本製品を安全に正しくご使用になるために必要な情報が記載されています。

また、本文中の名称についてはユーザーズガイドの「各部の名称と機能」の項をご参照ください。

安全にかかわる表示について

本書にはどこが危険か、指示を守らないとどのような危険に遭うのか、どうすれば危険を避けられるかなどについて説明されています。また、製品内で危険が想定される箇所またはその付近には警告ラベルが貼り付けられています。

本書、および警告ラベルでは危険の程度を表す言葉として、「警告」と「注意」という用語を使用しています。それぞれの用語は次のような意味を持つものとして定義されます。

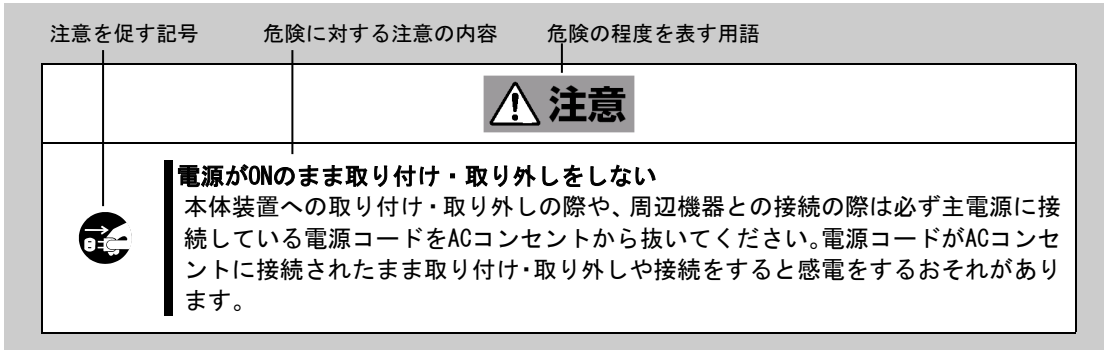
警告 人が死亡する、または重傷を負うおそれがあることを示します

注意 火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあることを示します。

危険に対する注意・表示は次の 3 種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味を持つものとして定義されています。

△	注意の喚起	この記号は、危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。	（例） （感電注意）
⃠	行為の禁止	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。	（例） （接触禁止）
●	行為の強制	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。	（例） (プラグを抜け)

（本書での表示例）



本書および警告ラベルで使用する記号とその内容

注意の喚起

	感電のおそれがあることを示します。		発煙または発火のおそれがあることを示します。
	指などがはさまれるおそれがあることを示します。		特定しない一般的な注意・警告を示します。
	高温による障害を負うおそれがあることを表します。		

行為の禁止

	特定しない一般的な禁止を示します。		本製品を分解・修理・改造しないでください。感電や火災のおそれがあります。
	ぬれた手で触らないでください。感電するおそれがあります。		指定された場所には触らないでください。感電や火傷などの障害のおそれがあります。

行為の強制

	本製品のACアダプターをコンセントから抜いてください。火災や感電のおそれがあります。		特定しない一般的な使用者の行為を指示します。説明に従った操作をしてください。

安全上のご注意

本製品を安全にお使いいただくために、ここで説明する注意事項をよく読んでご理解し、安全にご活用ください。記号の説明については巻頭の『安全にかかわる表示について』の説明を参照してください。

全般的な注意事項

⚠警告

人命に関わる業務や高度な信頼性を必要とする業務には使用しない

本製品は、医療機器・原子力設備や機器、航空宇宙機器・輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みやこれらの機器の制御を目的とした使用は意図されておりません。これらの設備や機器、制御システムなどに本製品を使用した結果、人身事故、財産被害などが生じても弊社はいかなる責任も負いかねます。

煙や異臭、異音がしたまま使用しない

万一、煙、異臭、異音などが生じた場合は、ただちにUSBケーブルを装置から抜いてください。その後、お買い求めの販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災の原因となります。

針金や金属片を差し込まない

通気孔やカートリッジ挿入口から金属片や針金などの異物を差し込まないでください。感電の危険があります。

⚠注意

製品内に水や異物を入れない

製品内に水などの液体、ピンやクリップなどの異物を入れないでください。火災や感電、故障の原因となります。もし入ってしまったときは、ただちにACアダプターをコンセントから抜いてください。その後、お買い求めの販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災の原因となります。

日本国外で使用しない

本製品は、日本国内専用として製造・販売しております。日本国外では使用できません。この装置を日本国外で使用すると火災や感電の原因となります。

電源・USB コネクタに関する注意事項

⚠警告

ぬれた手でUSBコネクタを持たない

ぬれた手でUSBコネクタの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。

⚠注意

添付のUSBケーブルを他の装置や用途に使用しない

添付のUSBケーブルは本製品に接続し、使用することを目的として設計され、その安全性が確認されているものです。決して他の装置や用途に使用しないでください。火災や感電の原因となるおそれがあります。

中途半端に差し込まない

USBコネクタの根元までしっかりと差し込んでください。中途半端に差し込むと接触不良のため発熱し、火災の原因となることがあります。また差し込み部にほこりがたまり、水滴などが付くと発熱し、火災の原因となるおそれがあります。

指定以外のコネクタに差し込まない

指定された電圧、指定のコネクタをお使いください。指定以外で使うと火災や漏電の原因となります。
また延長コードが必要となるような場所には設置しないでください。本製品の電源仕様に合っていないコードに接続すると、コードが過熱して火災の原因となります。

たこ足配線にしない

ケーブルに定格以上の電流が流れることによって、過熱して火災の原因となるおそれがあります。

⚠注意

USBケーブルを持って引き抜かない

ケーブルを抜くときはコネクタ部分を持ってまっすぐに引き抜いてください。ケーブル部分を持って引っ張ったりコネクタ部分に無理な力を加えたりするとケーブル部分が破損し、火災や感電の原因となります。

指定以外のUSBケーブルを使わない

本製品に添付されているUSBケーブル以外を使わないでください。
また、USBケーブルの破損による感電や火災を防止するために次の注意をお守りください。

- コード部分を引っ張らない。
- コード部分をはさまない。
- コード部分を折り曲げない。
- コード部分に薬品類をかけない。
- コード部分をねじらない。
- コード部分の上にものを載せない。
- コード部分を踏まない。
- コード部分を束ねたまま使わない。
- コード部分をステープラ等で固定しない。
- USBケーブルを改造・加工・修復しない。
- 損傷したUSBケーブルを使わない。(損傷したUSBケーブルはすぐ同じ規格のUSBケーブルと取り替えてください。交換に関しては、お買い求めの販売店または保守サービス会社にご連絡ください)。

設置・移動・保管・接続に関する注意事項

⚠注意

通気孔をふさがない

本製品の背面にある通気孔（ファン）をふさがないでください。内部の温度が上昇し、誤動作の原因となるばかりでなく、火災や感電の原因となります。

USBケーブルをコネクタから抜かずに手入れをしない

お手入れの際は必ずUSBケーブルをコネクタから抜いてください。また、ぬれた手で抜き差しをしないでください。感電することがあります。

指定以外のUSBケーブルを使用しない

USBケーブルは、弊社が指定するものを使用し、接続する製品やコネクタを確認した上で接続してください。指定以外のケーブルを使用したり、接続先を誤ったりすると、ショートにより火災を起こすことがあります。

また、USBケーブルの取り扱いや接続について次の注意をお守りください。

- ケーブルを踏まない。
- ケーブルの上にものを載せない。
- ケーブルの接続がゆるんだまま使用しない。
- 破損したケーブルを使用しない。
- 破損したケーブルコネクタを使用しない。
- ネジ止めなどのロックを確実に行ってください。

腐食性ガスの存在する環境で使用または保管しない

腐食性ガス（二酸化硫黄、硫化水素、二酸化窒素、塩素、アンモニア、オゾンなど）の存在する環境に設置し、使用しないでください。

また、ほこりや空気中に腐食を促進する成分（塩化ナトリウムや硫黄など）や導電性の金属などが含まれている環境へも設置しないでください。装置内部のプリント版が腐食し、故障及び発煙・発火の原因となるおそれがあります。

もしもご使用の環境で上記の疑いがある場合は、販売店または保守サービス会社にご相談ください。

高温注意

本体装置の電源をOFFにした直後は、内蔵型のハードディスクドライブなどをはじめ装置内の部品が高温になっています。十分に冷たいことを確認してから取り付け／取り外しを行ってください。

お手入れに関する注意事項

⚠警告

自分で分解・修理・改造はしない

本製品の分解や、修理・改造は絶対にしないでください。製品が正常に動作しなくなるばかりでなく、感電や火災の危険があります。

USBケーブルをコネクタに差し込んだまま取り扱わない

お手入れは、USBケーブルをコネクタから抜いてください。USBケーブルを接続したまま製品内の部品に触ると感電したり、ショートによる火災を起こすおそれがあります。
また、USBケーブルのコネクタ部分はときどき抜いて、乾いた布でほこりやゴミをよくふき取ってください。ほこりがたまったままで、水滴などがつくと発熱し、火災の原因となるおそれがあります。

⚠注意

中途半端に取り付けない

USBケーブルは確実に取り付けてください。中途半端に取り付けると接触不良を起こし、発煙や発火の原因となるおそれがあります。

運用中の注意事項

⚠注意

カートリッジ挿入口に手を入れない

カートリッジ挿入口に手を入れないでください。手を挟まれたり、巻き込まれたりしてけがをするおそれがあります。

雷がなったら触らない

雷が鳴りだしたら、ケーブル類も含めて本装置には触れないでください。また、機器の接続や取り外しも行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

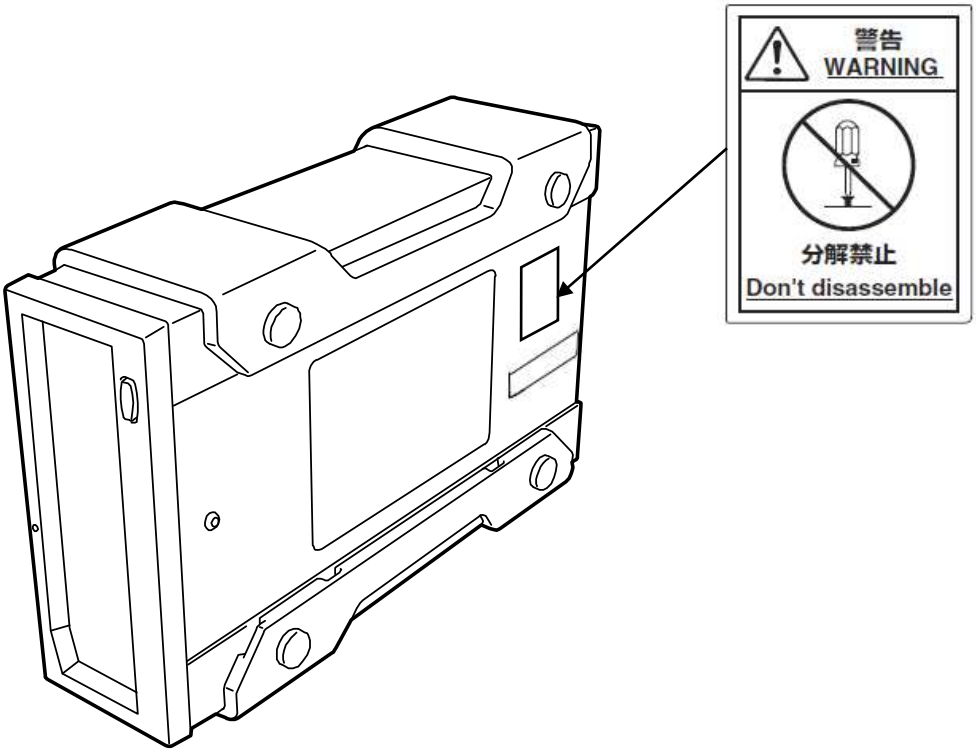
ペットを近づけない

本製品にペットなどの生き物を近づけないでください。排泄物や体毛が製品内部に入って火災や感電の原因となります。

警告ラベルについて

本装置には「分解禁止」の警告ラベルが貼り付けられています。本製品を正しく動作させるために、次の点について注意してください。

これは本製品を分解や改造することによる、火災や感電の危険性を常にお客様に意識していただくためのものです。ラベルをはがしたり、汚したりしないでください。もし、このラベルが貼り付けられていない場合やはがれかかっている場合、汚れなどで判読できない状態である場合は販売店にご連絡ください。



目　次

はじめに....1
商標について....2
オペレーティングシステムの表記について....2

使用上のご注意～必ずお読みください～....3

安全にかかわる表示について....3
本書および警告ラベルで使用する記号とその内容....4
安全上のご注意....5
警告ラベルについて....10
目　次....11
正しく動作させるために....13
Windows USBドライバーによるリトライについて....15
　概要....15
　適用方法....15
RDX Utilityの導入について....17
　概要....17
　導入方法....17
本書について....18
　はじめて取り扱うときの読み方....18
　本文中の記号について....19
その他....19
　第三者への譲渡について....19
　消耗品・製品の廃棄について....20
　製品寿命について....20
　保証について....20
箱の中身について....21
本製品について....22
各部の名称と機能....23
　製品本体前面....23
　製品本体背面....23
セットアップ....24
　バックアップ時の注意事項....25
　データカートリッジのセット....26
　データカートリッジの取り出し(通常時)....27
　データカートリッジの取り出し(非常時)....29
　LED表示....30
データカートリッジの各部名称....31
　使用環境条件（データカートリッジ）....32
　ラベル貼り付け位置....33
　ラベルへの記入上の注意事項....33
ライトプロテクト....33
　使用上のご注意....34
　一般的注意事項....34
データの3世代管理について....35

製品仕様....37

Windows USBドライバーリトライ設定手順....39
　hotfix適用手順....39
　レジストリー設定手順....49
　システム復旧手順....55

RDX Utilityのインストール....56

概要.....56
インストール手順.....56
ディスクモードについて.....58
概要.....58
モード切り替え方法.....58
固定ディスクモードについて.....61
固定ディスクモードでのデータカートリッジの取り出し.....62

運用状況お客様記入シート..... 64

トラブルシューティングチェックリスト..... 65

正しく動作させるために

本製品を正しく動作させるために、次の点について注意してください。

データカートリッジの取り扱いに関する注意事項については、「データカートリッジ」の章も参照してください。

- データカートリッジ前面にあるカートリッジLEDが点滅しているときにUSBケーブルを取外さないでください。

  → 故障、およびバックアップデータの破損の原因となります。

- 腐食性ガスの発生する場所、薬品類の近くや薬品類がかかるおそれのある場所に保管しないでください。

  → 部品が変形したり傷んだりして正常に動作しなくなるおそれがあります。

- 強い振動の発生する場所に保管しないでください。

  → 故障の原因となります。

- 本製品背面には冷却ファンが取り付けられています。ファンをふさいだり、風通しの悪い場所で使用しないでください。また、本製品を極端に高温な場所、温度変化の激しい場所などで保管および使用しないでください。

  → 故障の原因となります。

- 本製品に電源を入れたまま移動および輸送をしないでください。

  → 故障の原因となります。

- 本製品の上に重いものを置いた状態で保管および使用しないでください。

  → 故障の原因となります。

- 本製品にセットするデータカートリッジには、弊社製を使用してください。

  → 弊社製以外のデータカートリッジを使用すると読み取り／書き込みエラーを起こすことがあります。

- データカートリッジは分解しないでください

  → 中のデータが壊れるおそれがあります。また、分解したデータカートリッジを挿入することにより、本製品が故障するおそれがあります。

- データカートリッジに磁気の発生するものを近づけないでください。

  → 中のデータが壊れるおそれがあります。

- データカートリッジは異なるバックアップソフトで使用しないでください。

  また、同時に複数のユーティリティーからアクセスしないでください。

  → 中のデータが壊れたり、処理が失敗したりするおそれがあります。

- Windowsの「ディスクの管理」や「diskpart」(コマンドラインツール)など、Virtual Diskサービスを起動するツールを使用したままデータカートリッジの挿抜を行わないでください。

  → データカートリッジが正しく認識されない場合があります。
  これらのツールを使用する場合は、データカートリッジ挿入後に起動してください。

- 装置の近くで携帯電話やPHS、ポケットベルを使用しないでください。

  → 電波による誤動作の原因となります。

Windows で本装置を使用する場合の注意事項

●Windows Server 2025 で本製品を使用する場合

Windows Server 2025 では、以下のいずれかの条件で使用してください。
・Windows Server Backup 専用の固定ディスクモードで使用してください。
・リムーバブルモードで使用する場合は、2TB 以下のカートリッジのみをご利用ください。

●Windows 環境下でデータカートリッジ挿入時にフォーマット要求が発生する問題の回避手順

概要

データカートリッジは NTFS（ファイルシステム）フォーマットして出荷しておりますが、パーティション開始位置が 0 Byte、32,256 Byte、1,048,576 Byte の 3 種類のものが存在しています。Windows 7、Windows Vista、Windows Server 2008、Windows Server 2008 R2 環境下で、本製品にパーティション開始位置が 32,256 Byte のデータカートリッジを使用後 1,048,576 Byte のデータカートリッジに交換、またはその逆の交換を行った場合、図 1 に示すフォーマットを要求するメッセージが表示される場合があります。
この現象が発生すると、フォーマット要求をキャンセルし、Explorer から再度データカートリッジを開こうとしても同じメッセージが表示されます。また、フォーマットを実施しても現象は回避できません。

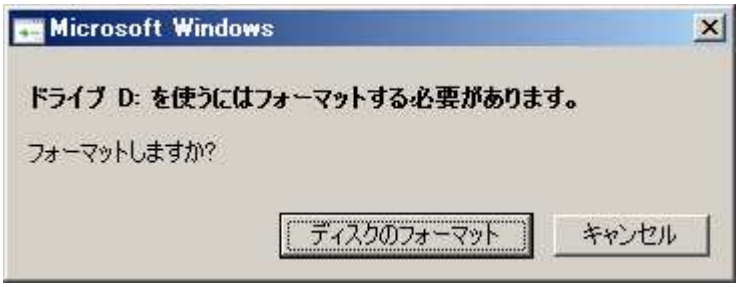


図 1　フォーマット要求画面

回避策

本現象については Microsoft 社の以下 Knowledge Base(技術情報)に情報があり、修正プログラムがリリースされております。

Microsoft 社 Knowledge Base：　http://support.microsoft.com/kb/2708857/ja
「Windows 7、Windows Vista、Windows Server 2008 または Windows Server 2008 R2 RDX カートリッジ ディスクが正しく認識されていません。」

修正プログラム適用後は再起動が必要となります。

適用範囲

Windows (Windows 7、Windows Vista、Windows Server 2008 または Windows Server 2008 R2)環境下で本製品を使用する場合には、事前に上記修正プログラムの適用をお願いいたします。

Windows USB ドライバーによるリトライについて

概要

Windows Sever 2008 R2 以前の OS で、かつ USB2.0 で接続する場合、OS 標準設定では USB ドライバーレベルでのリトライが有効になっていません。そのため本製品に対する書き込み／読み込み動作中に通信異常が発生した際、イベントログに警告やエラー(ID:51 / 57 / 50 / 55 / 11 等)が登録される場合があります。リトライ設定を有効にすることにより、ハードウェアに近い USB ドライバーレベルでのリトライが実施され、通信が安定します。

弊社としては、お客様に本製品をより安心してご使用いただくために、USB ドライバーリトライを有効に設定していただくことを推奨いたします。Windows Server 2003 SP1 以降の Windows OS で設定が可能となっています。

適用方法

Windows のレジストリーの設定を変更することで USB ドライバーリトライを有効にすることができます。但し、一部の OS は事前に Microsoft 社が提供する hotfix の適用が必要となりますので、以下をご確認ください。

適用手順については、「Windows USB ドライバーリトライ設定手順」(→39ページ)を参照して下さい。

重要

Windows Sever 2012、Windows Sever 2012R2 では Windows USB ドライバーリトライ設定は必要ありません。

表 1 サーバーOS での必要作業

Server OS (※1)	hotfix 適用	レジストリー設定	手順
Windows Server 2003 SP1	必要	必要	hotfix の適用とレジストリー設定が必要となります。Windows USBドライバーリトライ設定手順(→39ページ)のhotfix適用手順(→39ページ)以降を実施してください。
Windows Server 2003 SP2			
Windows Server 2003 R2 SP1 (※2)			
Windows Server 2003 R2 SP2			
Windows Server 2008 SP1 (※3)			
Windows Server 2008 SP2	不要	必要	レジストリー設定だけ必要となります。 Windows USBドライバーリトライ設定手順 (→39ページ)のレジストリー設定手順(→49ページ)以降を実施してください。
Windows Server 2008 R2			
Windows Server 2008 R2 SP1			
Windows Server 2012	不要	不要	-
Windows Server 2012 R2			

※1) OS の種類はシステム情報で確認してください。各 OS は、x86(32bit 版)、x64(64bit 版)の共通情報となります。
※2) SP2 未適用の場合、システム情報ではこのように表示されます。
※3) SP2 未適用の場合、システム情報ではこのように表示されます。

表 2 iStorage NS での必要作業

iStorage NS	hotfix 適用	レジストリー設定	手順
Windows Storage Server 2003	必要	必要	hotfix の適用とレジストリー設定が必要となります。Windows USBドライバーリトライ設定手順(→39ページ)のhotfix適用手順(→39ページ)以降を実施してください。
Windows Storage Server 2003 R2			
Windows Storage Server 2008	不要	必要	レジストリー設定だけ必要となります。 Windows USBドライバーリトライ設定手順 (→39ページ)のレジストリー設定手順(→49ページ)以降を実施してください。
Windows Storage Server 2012	不要	不要	-
Windows Storage Server 2012 R2			

表 3 クライアント OS での必要作業

Client OS (※1)	hotfix 適用	レジストリー設定	手順
Windows XP SP2 (x86)	必要	必要	hotfix の適用とレジストリー設定が必要となります。Windows USBドライバーリトライ設定手順(→39ページ)のhotfix適用手順(→39ページ)以降を実施してください。
Windows XP x64 Edition SP1			
Windows XP x64 Edition SP2			
Windows Vista			
Windows Vista SP1			
Windows XP SP3 (x86)	不要	必要	レジストリー設定だけ必要となります。 Windows USBドライバーリトライ設定手順 (→39ページ)のレジストリー設定手順(→49ページ)以降を実施してください。
Windows Vista SP2			
Windows 7			
Windows 7 SP1			
Windows 8	不要	不要	-
Windows 8.1			

※1) OS の種類はシステム情報で確認してください。Windows Vista、Windows 7 は、x86(32bit 版)、x64(64bit 版)の共通情報となります。

RDX Utility の導入について

概要

RDX Utility は本装置のステータス確認等をできるようにするツールです。

本ツールは Windows 上で動作するツールになります。

本製品をより安心してご使用いただくために、事前に RDX Utility のインストールをお願いします。

導入方法

RDX Utility は添付 CD に収録されています。

導入手順については、「RDX Utility のインストール」(→56ページ)を参照して下さい。

ヒント

- Windows Server 2012 以降をご使用の場合は WEB より最新の RDX Manager をダウンロードしてください。
  URL:https://www.support.nec.co.jp/PSHome.aspx

本書について

本書は、本製品を正しくセットアップし、使用できるようにするための手引きです。本製品のセットアップを行う場合や日常使用する上で、わからないことが起きたときにご利用ください。

はじめて取り扱うときの読み方

本製品を梱包箱から取り出して、はじめて取り扱うときは次の順序で本書を参照して、セットアップをしてください。

1. 箱の中身を確認する ..... 箱の中身について（→21ページ）
2. 取り扱う上での注意事項を覚える..... 使用上のご注意（→3～13 ページ）
3. 製品本体の部品の名前を覚える ..... 各部の名称と機能（→23ページ）
4. 製品本体を本体装置に取り付ける..... セットアップ（→24ページ）
5. データカートリッジをセットする..... 取り扱い（→26ページ）
6. LED 表示を確認する..... LED 表示（→30ページ）
7. データカートリッジについて確認する ..... データカートリッジ各部名称（→31～36ページ）
8. 本製品の仕様 ..... 本製品仕様(→37ページ）
9. Windows USB ドライバーリトライ設定手順を確認する ..... Windows USB ドライバーリトライ設定手順（→39～55ページ）
10. RDX Utility の導入手順を確認する ..... RDX Utility のインストール（→56ページ）

データの保存のしかたやデータの保存形式などの設定については、バックアップソフトに添付のユーザーズガイドを参照してください。

本文中の記号について

本文中では、次の記号を使って運用上の注意やヒントを示しています（安全上の注意事項に関する記号については巻頭の説明をご覧ください）。

重要	製品の取り扱いや、ソフトウェアの操作で守らなければならない事柄や特に注意をすべき点を示します。
ヒント	知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。

その他

第三者への譲渡について

製品本体または本製品に添付されているものを第三者に譲渡（または売却）するときは、次の注意を守ってください。

- 製品本体について

  製品本体を第三者へ譲渡（または売却）する場合は、本書を一緒にお渡しください。

- その他の付属品について

  その他の付属品もセットアップするときなどに必要となりますので、一緒にお渡しください。

重要

データカートリッジ内のデータについて

使用していたデータカートリッジに保存されている大切なデータ（例えば経営情報や企業の経理情報など）が第三者へ漏洩することのないように、お客様の責任において確実に処分しておいてください。

このようなトラブルを回避するために使用しているバックアップソフトなどでデータを完全消去し、確実にデータを処分することを強くおすすめします。データの消去についての詳細はバックアップソフトのユーザーズガイドをご参照ください。

なお、データの処分をしないまま譲渡（または売却）し、大切なデータが漏洩された場合、その責任は負いかねます。

消耗品・製品の廃棄について

本製品、およびデータカートリッジの廃棄については各自治体の廃棄ルールにしたがってください。なお、添付品の USB ケーブルにつきましても、他装置への転用を防ぐため、本体と一緒に廃棄してください。詳しくは、各自治体へお問い合わせください。

重要

廃棄するデータカートリッジ内のデータを第三者によって不正流用および二次使用されないよう、確実に処分してから廃棄してください。

製品寿命について

本製品の製品寿命は５年またはデータカートリッジの挿抜回数５０００回です。

保証について

本製品には『保証書』が添付されています。『保証書』は販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、記載内容を確認のうえ、大切に保管してください。保証期間中に故障が発生した場合は、『保証書』の記載内容にもとづき無料修理いたします。詳しくは『保証書』をご覧ください。

保証期間後の修理についてはお買い求めの販売店、最寄りの弊社または弊社の保守サービス会社に連絡してください。

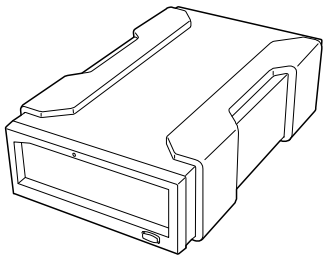
本製品に対し保守契約を結ばれたお客様へ

本製品の保守停止時期は、製造打ち切り後、5 年になります。

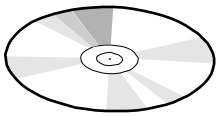
箱の中身について

N8160-99 外付 RDX ドライブの梱包箱の中には、外付 RDX ドライブ本体（ドライブ）以外にいろいろな付属品が入っています。下図を参照してすべてがそろっていることを確認し、それぞれ点検してください。万一足りないものや損傷しているものがある場合は、販売店に連絡してください。

☐ 外付 RDX ドライブ本体（ドライブ）

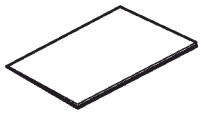


☐ CD(ユーザーズガイド、RDX Utility)



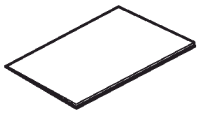
☐ USB ケーブル

☐ スタートアップガイド



☐ 保証書

☐RDX 注意シート



重要

- 梱包箱や箱の中に入っていた固定用部材は、本製品を取り外して輸送する際に必要となります。大切に保管しておいてください。
- 接続する環境によっては使用しない部品がありますが、環境が変わったときなどに使用する可能性がありますので、大切に保管してください。
- 添付の保証書はアフターサービスを受けるときに必要となります。大切に保管しておいてください。
- USB ケーブルの使用方法については、24ページの「接続手順」を参照してください。

本製品について

■ 使用できるデータカートリッジ一覧

データカートリッジ型番＊1	記憶容量＊2	内蔵記憶ドライブ	出荷時フォーマット	サポートファイルシステム
N8152-19	80GByte	HDD	NTFS	ext2、ext3、ext4 FAT32、NTFS、exFAT
N8152-20	160GByte			
N8152-26/N8153-01	320GByte			
N8152-27/N8153-02	500GByte			
N8152-30	640GByte			
N8152-33/N8153-03	1TByte			
N8153-04	1.5TByte			
N8153-08/N8153-09	2TByte			
N8153-10	3TByte			
N8153-11	4TByte			
N8153-06	128GByte	SSD		
N8153-07	256GByte			

＊1: データカートリッジの種類は、2022 年 5 月現在のものです。(出荷停止品を含みます。)

＊2: 未フォーマット時（1GByte=1000^3Byte 換算）のディスク容量です。フォーマットによりディスク容量は減りますので、実際に書き込めるデータ容量は上記記載より**少なく**なります。

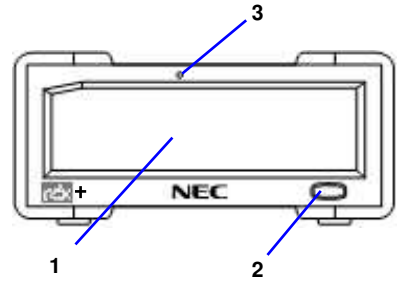
重要

- **本製品にデータカートリッジをセットしたまま運用をする場合、OS の起動が失敗する場合があります。本体装置の BIOS 設定で本装置をブートデバイスから除外するか、ブート順位を OS 起動デバイスより低くなるように設定してください。**
- **Windows のデバイスマネージャで設定可能な RDX デバイスのプロパティ→ポリシーの設定は変更しないでください。**
- **データカートリッジは消耗品です。エラーが発生したデータカートリッジは使い続けず、新しいデータカートリッジに交換してください。**
- **データカートリッジに衝撃が加わった場合には、早めにデータカートリッジ内のデータを保存して、データカートリッジを新しいものと交換してください。**
- **本製品には弊社指定のデータカートリッジをご使用ください。**
- **本製品はデータのバックアップ用としてご使用ください。データカートリッジにシステムデータをインストールすること、データカートリッジから OS ブートすることはできません。**
- **3 ヶ月毎にデータの読み出し確認を推奨します。**
- **OS によっては、ファイルシステムとして exFAT が選択可能ですが、弊社では exFAT の使用を推奨しておりません。**

各部の名称と機能

本製品の各部の名称と機能について説明します。

製品本体前面

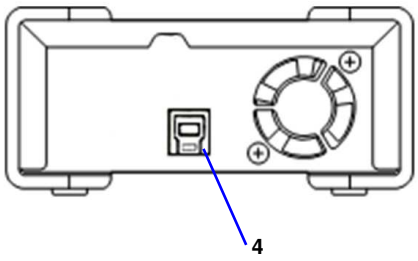


1　カートリッジ挿入口
データカートリッジをセットするスロット。
（→26ページ）

2　イジェクトボタン／電源 LED
イジェクトボタンと電源 LED を兼ねています。
（→30ページ）

3　非常取り出し用穴
（→29ページ）

製品本体背面



4　USB コネクタ
本製品添付の USB ケーブルを接続する。
（→24ページ）
本製品には電源スイッチはありません。本製品はバスパワー駆動装置です。電源の OFF/ON は USB コネクタ挿抜により行います。

セットアップ

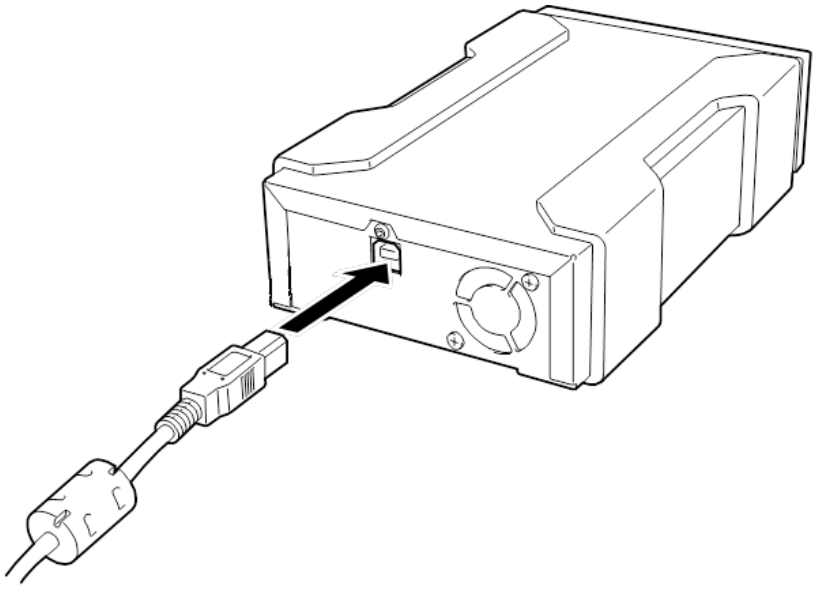
本製品を Express5800 シリーズ製品などの「本体装置」に取り付けるまでの手順を説明します。

重要

- 本製品は USB ハブを経由しての接続は不可となります。
  本製品はバスパワー駆動装置です。本体装置の２箇所の USB コネクタへ接続してください。２箇所に接続しないと正常に動作しない場合があります。
- 本体装置の電源投入前に本製品を接続してください。
  本体装置起動後に本製品を接続すると、バックアップソフトとの間の設定で認識がずれる場合があります。その場合、ソフトの再設定が必要ですのでソフトのユーザーズガイドを参照ください。
- OS 起動中に本製品の USB ケーブルを抜くと、電源 OFF になり、バックアップソフトとの間の設定で認識がずれる場合があります。その場合、ソフトの再設定が必要ですのでソフトのユーザーズガイドを参照ください。
- 本製品にデータカートリッジを挿入したまま移動しないでください。本製品の故障の原因となります。
- バックアップ完了後は、データカートリッジを取り出してください。

接続手順

1. USB ケーブルの接続
   添付の USB ケーブルを本体装置（サーバー側）の２箇所の USB コネクタと本製品背面の USB コネクタに接続します。本体装置の電源を投入すると本製品に電源が投入されます。



バックアップ時の注意事項

弊社の Web 情報ページである NEC コーポレートサイト（http:// jpn.nec.com/）の＜製品＞－「サーバー・ストレージ」－「PCサーバー（Express5800シリーズ）」－「オプション製品」－「バックアップ」－「システム構成ガイド」内にあります＜外付オプション装置＞の下の「バックアップ装置対応ソフトウェア一覧」を確認し本製品に対応しているバックアップソフトをご使用ください。なお、バックアップソフトの取り扱いについては、バックアップソフトのヘルプ等を参照ください。

重要

(1) Windows Server バックアップを使用する場合の注意事項

- 2 巻にまたがるバックアップは実施できません。
- 転送速度は Windows の動作仕様により、37ページ記載の実効転送速度よりも遅くなります。

(2) オプションのバックアップをソフト使用する場合の注意事項

ソフト側の環境設定があるものについては、本製品はリムーバブルディスクと設定してください。リムーバブルディスク以外で設定した場合、追加バックアップが選択不可となることがあります。

(3) Linux を使用する場合

- データカートリッジは、出荷時 NTFS フォーマットとなっています。mkfs コマンドを使用してファイルシステムとして ext2、ext3 または ext4 にフォーマットしてください。
- Linux では cp,diff,eject,mkfs,fdisk,mount,umount コマンドの使用をサポートしています。

(4) Linux で使用したデータカートリッジを Windows で使用する場合

- Linux 上であらかじめ fdisk コマンドを使用し、パーティションを削除しておいてください。書き込まれていたデータはクリアされますので、注意してください。

(5) バックアップ中の注意事項

- バックアップ中に USB ケーブルを抜いたり、電源 OFF にしないでください。

取り扱い

本製品の取り扱い方法を説明します。

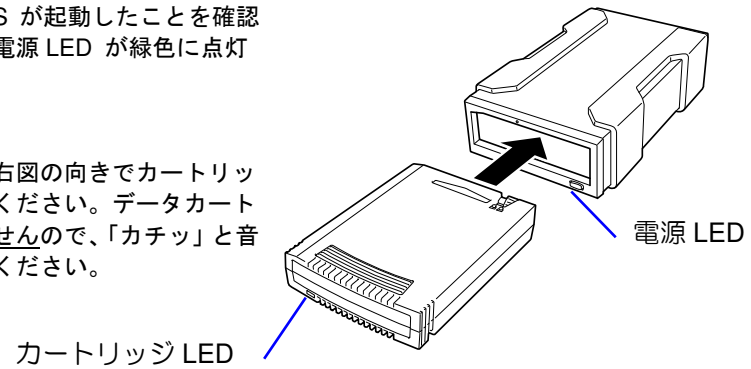
重要

(1) イジェクトボタンが有効となる場合でも、データカートリッジ取り出しは、次ページに記載の取り出し方法で行ってください。
(2) OS の設定によっては、データカートリッジがセットされていないとドライブアイコンが表示されない場合があります。

データカートリッジのセット

1. 本体装置の電源を ON にし、OS が起動したことを確認してください。またドライブの電源 LED が緑色に点灯したことを確認してください。

2. 本製品にデータカートリッジを右図の向きでカートリッジ挿入口にゆっくりと挿入してください。データカートリッジは自動的に引き込まれませんので、「カチッ」と音がするまで、しっかり挿入してください。



重要

・Windows でご使用のお客様へ
本製品は Windows 上では、リムーバブルディスクとして認識されます。
バックアップソフトを使用する場合も、ソフト側から特別な指定がない限り、リムーバブルメディアとして使用してください。

・Linux でご使用のお客様へ
- データカートリッジは、出荷時 NTFS フォーマットとなっています。使用するファイルシステム（ext2、ext3、ext4）にフォーマットを変更してください。
- 自動でデータカートリッジが読み込まれない場合は、mount コマンドを使用しデータカートリッジを認識させてください。

データカートリッジの取り出し（通常時）

1. データカートリッジのカートリッジ LED が緑色点滅していないこと確認してください。

バックアップソフトを使用している場合は、バックアップソフト上からイジェクト処理を行ってください。
バックアップソフトを使用していない場合は、OS 上から以下の手順にしたがって処理を実施してください。

（OS の種類により認識中のデータカートリッジは、ドライブのイジェクトボタンでは取り出せません。）

ヒント

Windows の場合

エクスプローラー上から右クリックの「取り出し」実行します。バックアップソフトを使用している場合は、ソフト上から取り出し処理を行ってください。Administrator 権限がないとエクスプローラーやソフト上からの排出はできません。Administrator 権限が無いユーザーでも取り出しを実施させる場合には、以下手順でローカルセキュリティポリシーの設定を変更してください。

1. 管理者アカウントでログオンしてください。
2. 「スタート」-「すべてのプログラム」-「管理ツール」-「ローカルセキュリティポリシー」を実行してください。
3. 「ローカルポリシー」をダブルクリックし、表示された一覧の中から「セキュリティオプション」をクリックしてください。
4. 一覧の中から「デバイス：リムーバブルメディアを取り出すのを許可する」をダブルクリックしてください。
5. 「ローカルセキュリティの設定」タブのプルダウンメニューから、設定する内容を選択してください。

- Administrator：

  →管理者グループとユーザーだけ許可

- Administrator と Power Users：

  →管理者グループと Power Users グループのユーザーだけに許可

- Administrator と Interactive Users

  →全てのユーザーに許可

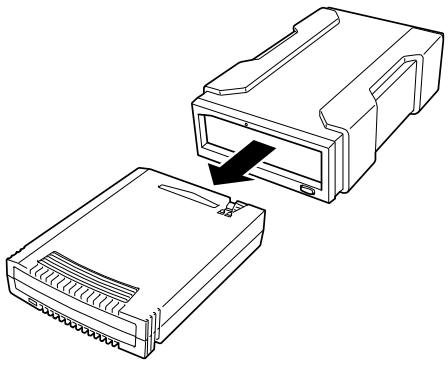
6. [OK]をクリックして、完了です。

ヒント

Linux の場合

1. バックアップやリストアなどで本製品を使用していないことを確認してください。本製品を使用しているバックアップソフトなどがある場合は終了させてください。
2. umount を実行し、本製品のイジェクトボタンを押してデータカートリッジを取り出してください。

2. データカートリッジが自動的にカートリッジ挿入口から排出されますので、手でデータカートリッジを掴みゆっくりと取り出してください。



重要

- データカートリッジのカートリッジ LED が緑色点滅している間は、データカートリッジを取り出さないでください。データが壊れる可能性があります。
- エクスプローラー上でのコピーや、ソフトがアクセス中に、データカートリッジを取り出さないでください。処理自体が失敗するだけでなく、データが壊れる可能性があります。
- 本製品にデータカートリッジを挿入したまま移動しないでください。
- バックアップ完了後は、データカートリッジを取り出してください。

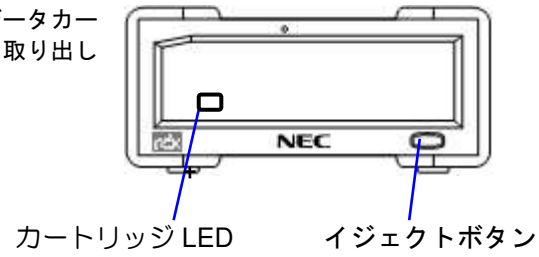
データカートリッジの取り出し(非常時)

ここでは、非常時に本製品からデータカートリッジを取り出す手順を説明します。

通常の取り出し手順で取り出せない場合に限った、緊急時の取り出し手段です。通常の運用では、本手順での取り出しは行わないでください。

■イジェクトボタン長押しによる取り出し

1. カートリッジ LED が点滅していないことを確認してください。
2. イジェクトボタンを 5 秒以上押し続けてください。
3. 挿入口からデータカートリッジがイジェクトされたら、データカートリッジの両側をしっかりと持ち、データカートリッジを取り出してください。

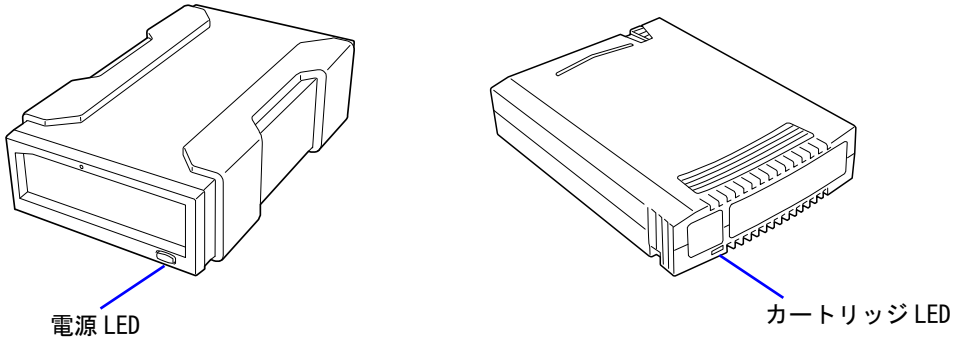


■非常取り出し用ホールによる取り出し

1. データカートリッジのカートリッジ LED が点滅していないこと確認してください。
2. 本製品から USB ケーブルを取外してください。
3. クリップのような、先の細い棒を用意してください。
4. 本製品前面の非常取り出し穴に、3 で用意した棒を強く押し込んでください。
   やわらかいものや、細すぎるものでは、スイッチを押し込むことができません。
5. 挿入口からデータカートリッジがイジェクトされたら、データカートリッジの両側を
   しっかりと持ち、データカートリッジを取り出してください。

LED 表示

本製品は前面の電源 LED およびデータカートリッジのカートリッジ LED により状態を知らせます。



■電源 LED

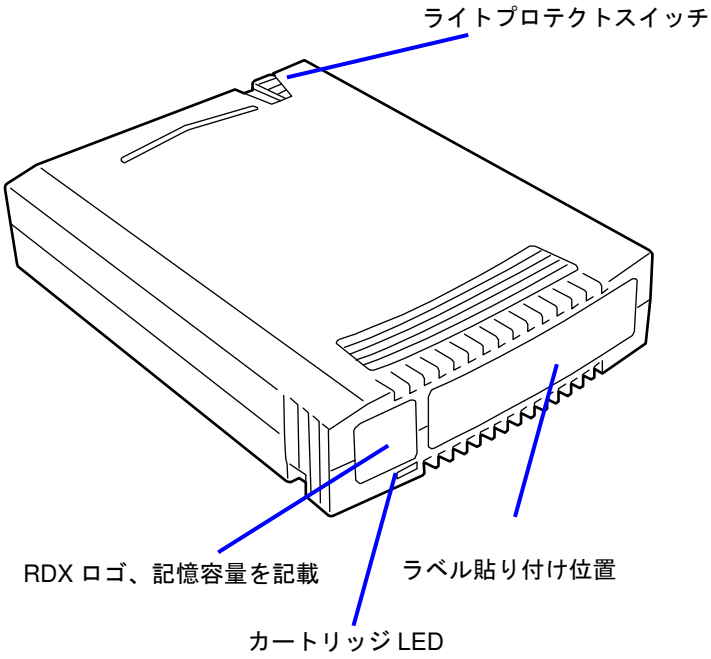
LED 状態	ドライブ状態	詳細／処置
消灯	電源が ON になっていません。	ー
緑色点灯	待機中です。	ー
緑色点滅	データカートリッジをイジェクト中です。	データカートリッジが排出されるまでお待ちください。
アンバー色点灯	ドライブがエラーを検出しています。	販売店または保守サービス会社にご相談ください。
アンバー色点滅	OS が認識中のデータカートリッジのドライブのイジェクトボタンが押されたことを検出しました。数秒後に緑点灯または緑点滅に戻ります。	取り出そうとしているデータカートリッジは OS が認識中です。データカートリッジを取り出す場合は、OS/ソフト上から取り出してください。(→27ページ)

■カートリッジ LED

LED 状態	データカートリッジ状態	詳細／処置
消灯	電源が ON になっていません。	ー
緑色点灯	待機中です。	バックアップ、取り出しなどが可能です。
緑色点滅	データカートリッジにアクセス中です。	読み取り、書き込み、検索などでデータカートリッジにアクセス中です。 データカートリッジ排出、ドライブの電源 OFF は行わないでください。処理が失敗するだけでなく、データが壊れる可能性があります。
アンバー色点灯	データカートリッジでエラーを検出しています。	データカートリッジを交換してください。

データカートリッジの各部名称

データカートリッジについての取り扱い方法について説明します。



使用環境条件（データカートリッジ）

- 動作環境

  温度　　10～40℃　(勾配　10℃/時)

  湿度　　20～80%　(結露なきこと）

  高度　　-15～3,048m

  最大湿球温度　29℃

- 非動作環境

  温度　　-40～65℃　(勾配　20℃/時)

  湿度　　8～90%　(結露なきこと）

  高度　　-15～10,668m

  最大湿球温度　38℃

- 保管環境 (データカートリッジ(HDD タイプのみ))

  温度　　5～26℃　(勾配　10℃/時)

  湿度　　8～90%　(結露なきこと）

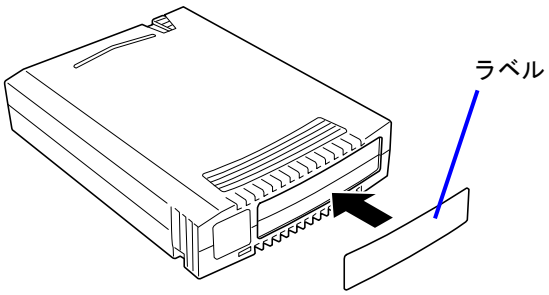
  高度　　-15～3,048m

  最大湿球温度　25℃

ラベル

どのデータカートリッジにどのデータをバックアップしているかなどがすぐにわかるようにデータカートリッジに添付のラベルを貼り付けておくことをお勧めします。

ラベル貼り付け位置



ラベルへの記入上の注意事項

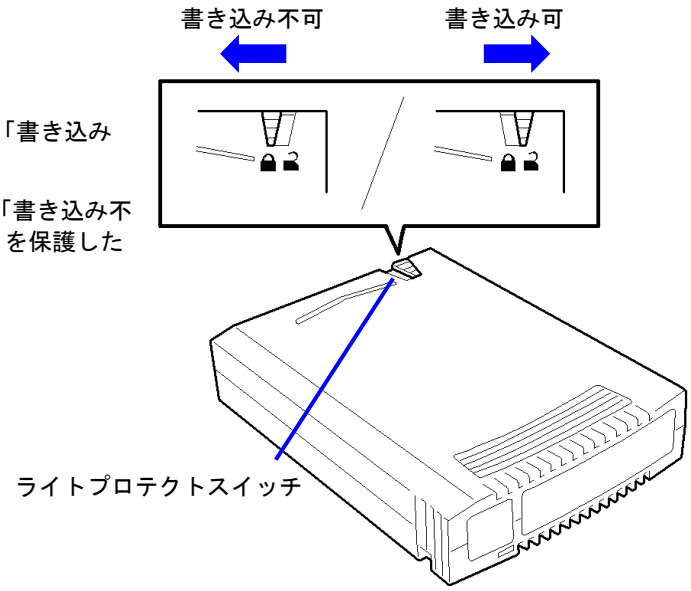
- ラベルはデータカートリッジに添付のものをご使用ください。
- 内容の表示を変更するときは、消しゴムで消さず、必ずラベルを貼り替えてください。
- ラベルを貼るときは、前項で指定された位置に確実に貼り、さらに取り換える場合は古いラベルを取り除いてから新しいラベルを貼ってください。

  指定以外の場所にラベルを貼ると、排出不可や挿入不可の原因となるおそれがあります。
- 添付のラベルには、使用開始年月日を記入してください。データカートリッジの寿命をチェックする目安となります。

ライトプロテクト

ライトプロテクトスイッチを右側に設定すると、「書き込み可」になります。

ライトプロテクトスイッチを左側に設定すると、「書き込み不可」となります。データカートリッジ内のデータを保護したい場合は、スイッチを左側に設定してください。



取り扱い上の注意事項

使用上のご注意

使用する前

- 使用するデータカートリッジが、外的損害を受けていたり、または変形したり、曲がっているときは、使用しないでください。
- 装置の使用温湿度条件以外で保管されていたデータカートリッジを使用する場合は、使用温湿度条件以外にあった時間より長く（最大 8 時間）、使用環境に持ち込んでから使用してください。保管場所と使用場所の温度差が大きい場合は、一度に持ち込むのではなく、温度変化が 1 時間に 10℃以下になるようにして、データカートリッジを使用場所の温度になじませてください。

装置への装着

「データカートリッジのセット」での説明にしたがってデータカートリッジをセットしてください。データカートリッジを取り出した後の保護ケースは、しっかりと閉じ、チリやホコリの少ない場所で保管してください。

使用した後

使用済みのデータカートリッジは、必ず保護ケースに入れてチリやホコリの少ない場所で保管してください。置き方は水平、垂直どちらでもかまいません。

一般的注意事項

- データカートリッジは消耗品です。エラーが発生したデータカートリッジは使い続けず、新しいデータカートリッジに交換してください。
- 分解しないでください。
- 磁気の発生するものを近づけないでください。
- 直射日光や暖房器具の近くには置かないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 飲食や喫煙をしながらの取り扱いは避けてください。また、シンナーやアルコールなどを付着させないように注意してください。
- 装置への挿入は、ていねいに行ってください。
- 指定された位置以外にラベルは貼らないでください。

データカートリッジ交換周期（目安）

交換周期：HDD データカートリッジ：挿抜回数：2500 回　または使用開始より 2 年
　　SSD データカートリッジ：挿抜回数：2500 回　または使用開始より 5 年

- 使用環境（温度・湿度・塵埃等）によって、目安より短くなることがあります。

データカートリッジの寿命管理として下記の手順を実施していただくことをお勧めします。

- 新しいデータカートリッジに管理番号を割り当て、その番号をデータカートリッジのラベルに記入しておきます。
- データカートリッジ管理台帳を作り、使用日を記録し、データカートリッジの使用年数と使用回数を見積もります。

重要なデータの保存について

重要なデータまたはプログラムなどを保存する場合には、万一の場合に備えて、正副 2 巻に保存することをお勧めします。

また､保存する際にはバックアップソフトのベリファイ機能を利用し､保存したデータの確認も行うことをお勧めします。ベリファイ機能の利用方法については、各バックアップソフトのユーザーズガイドを参照してください。

こうしておけば、一方のデータカートリッジのデータが壊れた場合でも、もう一方のデータカートリッジから復旧でき、大切なデータやプログラムの消失を防げます。

長期間にわたって読み出しを行わない場合は、常にバックアップデータが復旧可能であることを確認するため、3 ヶ月毎にデータの読み出し確認を推奨します。

データの 3 世代管理について

ディスク上のデータを保存する場合は、保存したデータの 3 世代管理をお勧めします。

3 世代管理は、データカートリッジ 3 巻（A、B、C）を使用して、ディスク上のデータを 1 日目はデータカートリッジ A に保存し、2 日目はデータカートリッジ B に、3 日目はデータカートリッジ C に保存していくものです。

これにより、例えば一巻のデータカートリッジ C がエラーを起こした場合には、データカートリッジ B を使用してデータを復旧でき、また、データカートリッジ B がリードエラーを起こした場合でもデータカートリッジ A のデータを使用して大切なデータを復旧することができます。

データカートリッジの保管について

決められた保管条件を守り、保管場所を常に清潔に保ってください。

書き込みを禁止にしておくことをお勧めします。

万一の場合を想定してシステムから遠く離れた場所に保管しておくことをお勧めします。

正副 2 巻のデータカートリッジがある場合には、正、副それぞれを異なる場所に保管しておくとさらに効果的です。

データカートリッジ保管期間（目安）

保管期間：HDD データカートリッジ：5 年

決められた保管条件（温度・湿度・高度等）をお守りください。

保管期間は保管環境や保管前の使用状況によって短くなることがあります。上記の保管期間は目安であり、データの読み出しを保証するものではありませんので、ご了承ください。

SSD データカートリッジを保管する場合は非動作環境条件を守り、長期間使用しない場合でも、12 ヶ月毎にデータの読み出し確認を行ってください。

バックアップと惨事復旧手順の制定

バックアップ方法を定めるときは、常に惨事復旧を想定したスケジュールを組んでください。バックアップ・リストアの正しい手順を制定することが、バックアップシステム運用の第一歩です。

惨事復旧の手順を確立し、正しく運用されることを定期的に確認してください。

製品仕様

本装置の仕様について記載します。

■ 性　能

記憶容量	256 GByte	(N8153-07 データカートリッジ使用時)
	128 GByte	(N8153-06 データカートリッジ使用時)
	4 TByte	(N8153-11 データカートリッジ使用時)
	3 TByte	(N8153-10 データカートリッジ使用時)
	2 TByte	(N8153-08/09 データカートリッジ使用時)
	1.5 TByte	(N8153-04 データカートリッジ使用時)
	1TByte	(N8152-33/N8153-03 データカートリッジ使用時)
	640 GByte	(N8152-30 データカートリッジ使用時)
	500 GByte	(N8152-27/N8153-02 データカートリッジ使用時)
	320 GByte	(N8152-26/N8153-01 データカートリッジ使用時)
	160 GByte	(N8152-20 データカートリッジ使用時)
	80 GByte	(N8152-19 データカートリッジ使用時)

・データカートリッジの種類は、2022 年 5 月現在のものです。
(出荷停止品を含みます。)
・未フォーマット時（1GByte=1000^3Byte 換算）のディスク容量です。フォーマットによりディスク容量は減りますので、**実際に書き込めるデータ容量は記載より少なくなります。**
（22 ページ　使用できるデータカートリッジ一覧も参照ください）

訂正不能エラーレート	1×10^{14} bit read に 1 回以下
実効転送速度	約 25MByte／秒 (USB2.0 転送時) 約 80MByte／秒 (USB3.0 転送時/データカートリッジ(HDD タイプ)使用) 約 140MByte／秒 (USB3.0 転送時/データカートリッジ(SSD タイプ)使用)
	「実効転送速度」は本製品における読込/書込時の理論値性能を示しています。理論値であり、実際のバックアップ時間を保証するものではありません。実際のバックアップ時間は、「データバスのデータ転送能力」「ハードディスク・DAC（ディスクアレイコントローラ）のデータ転送能力」「バックアップソフト」「サーバーの処理能力(CPU)」「バックアップ以外のジョブ状況」「バックアップするファイルの種類および数」などの条件により異なります。
USB インターフェース	USB2.0/USB3.0
USB コネクタ	USB 標準 B レセプタクル

■ 寿命

５年またはデータカートリッジ挿抜回数５０００回

■ 環境条件

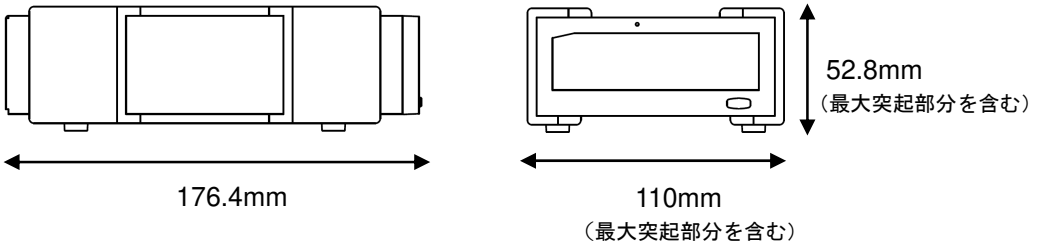
動作時	温度: 10℃～40℃ (最大湿球温度 29℃) 湿度: 20%～80%（結露なきこと）
非動作時	温度: －40℃～65℃ (最大湿球温度 38℃) 湿度: 5%～95%（結露なきこと）

■ 電源仕様

■製品本体

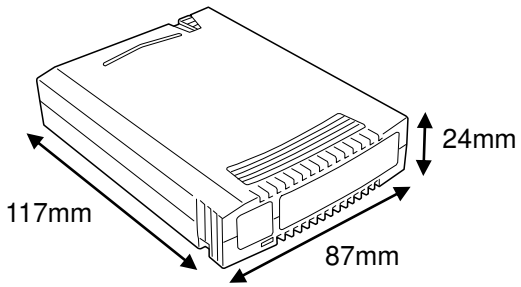
消費電力（Typ.）	4.5W
消費電力（Max.）	8W

■寸法・重量



重量：630g

■データカートリッジ寸法・重量



■重量 HDD タイプ：170 ~ 220g
SSD タイプ：124～128g

（データ容量によって異なる）

Windows USB ドライバーリトライ設定手順

hotfix 適用手順

Windows Server 2003 SP1、Windows Server 2003 SP2、Windows Server 2003 R2 SP1、Windows Server 2003 R2 SP2、Windows Server 2008 SP1、
Windows Storage Server 2003、Windows Storage Server 2003 R2、
Windows XP SP2、Windows XP x64 Edition SP1、Windows XP x64 Edition SP2、Windows Vista、Windows Vista SP1 で USB ドライバーリトライを有効化する場合、レジストリー設定を行う前に hotfix の適用が必要となります。
hotfix 適用の際、システムが異常終了する場合などに備えて、事前にシステムのバックアップを取得してください。

iStorage NS シリーズの場合は、以下の URL にて hotfix と適用手順書を公開していますので、ご参照ください。
URL：http://support.express.nec.co.jp/dload/9010101327/9010101327.html

なお、適用手順書にも一般的な USB デバイスに対するレジストリー設定手順を記載しておりますが、本製品に対するレジストリー設定手順につきましては、本書の「レジストリー設定手順」をご参照ください。

重要

- Windows Sever 2012、Windows Sever 2012R2 では Windows USB ドライバーリトライ設定は必要ありません。

1. hotfix の入手

http://support.microsoft.com/kb/908673/

文書番号：908673　「デバイスを USB 2.0 ハブに接続されている間にファイルを転送しようとすると問題が発生する可能性があります。」

上記サイトの上部のリンクにある、「修正プログラムのダウンロード」「この技術情報に対応する修正プログラムのダウンロードのリスト」をクリックします。表 4 を確認し、ご使用の OS に対応した hotfix を選択します。

メールアドレスなど必要事項を入力し「リクエストを送信する」をクリックすると、指定したメールアドレスにダウンロード場所を記載したメールが送付されますので、ファイルをダウンロードしてください。ダウンロードしたものは zip 形式の自己解凍形式となっており、実行することで hotfix が解凍されます。

重要

- 表示されない場合、「すべての環境、言語用の修正プログラムを表示する」をクリックします。
- Windows Server 2003 の場合、SP1 以上のサービスパックを適用の後、hotfix の適用をお願いいたします。
- Windows XP の場合、SP2 以上のサービスパックを適用の後、hotfix の適用をお願いいたします。
- 32bit バージョンは x86、64bit バージョンは x64 と表示されております。ご使用の OS に応じた hotfix を選択し、ダウンロードのリクエストをお願いいたします。

PP サポートサービスをご契約の場合、PP サポートサービス経由でも hotfix のご提供が可能です。

表 4 各 OS に対応する hotfix

OS	選択する hotfix	解凍後のファイル名
Windows Server 2003 SP1 (x86) **Windows Server 2003 SP2 (x86)**	**製品: Windows Server 2003** **言語: Japanese** **環境: x86** **リリース: sp3** **Fix name : Fix203311**	**WindowsServer2003-KB908673-v2-x86-JPN.exe**
Windows Server 2003 R2 SP1 (x86) **Windows Server 2003 R2 SP2 (x86)**		
Windows Server 2003 SP1 (x64) **Windows Server 2003 SP2 (x64)**	**製品: Windows Server 2003** **言語: Japanese** **環境: x64** **リリース: sp3** **Fix name : Fix203311** **(※1)**	**WindowsServer2003.WindowsXP-KB908673-v2-x64-JPN.exe**
Windows Server 2003 R2 SP1 (x64) **Windows Server 2003 R2 SP2 (x64)**		
Windows XP x64 Edition SP1 **Windows XP x64 Edition SP2**		
Windows Server 2008 SP1 (x86)	**製品: Windows Vista** **言語: All(Global)** **環境: x86** **リリース: sp2** **Fix name : Fix227345** **(※2)**	**Windows6.0-KB908673-x86.msu**
Windows Vista (x86) **Windows Vista SP1 (x86)**		
Windows Server 2008 SP1 (x64)	**製品: Windows Vista** **言語: All(Global)** **環境: x64** **リリース: sp2** **Fix name : Fix227345** **(※2)**	**Windows6.0-KB908673-x64.msu**
Windows Vista (x64) **Windows Vista SP1 (x64)**		
Windows XP SP2 (x86)	**製品: Windows XP** **言語: Japanese** **環境: x86** **リリース: sp3** **Fix name : Fix204602** **(※3)**	**WindowsXP-KB908673-v2-x86-JPN.exe**

※1) Windows XP x64 Edition の hotfix は Windows Server 2003 x64 と共通です。
※2) Windows Server 2008 の hotfix は Windows Vista 用と共通です。
※3) Windows XP (x86)の hotfix は 2 種類表示されます。Fix name: Fix204602 を選択してください。

2. hotfix の適用

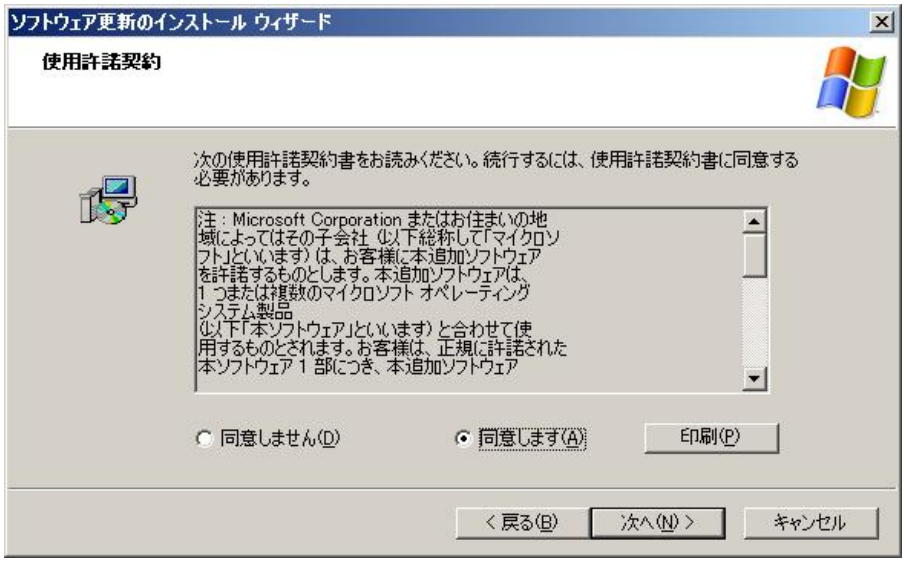
運用環境への適用を行う前に、データのバックアップを採取することを強くお勧めいたします。

1.システムを起動し、Administrator ユーザーでログインします。

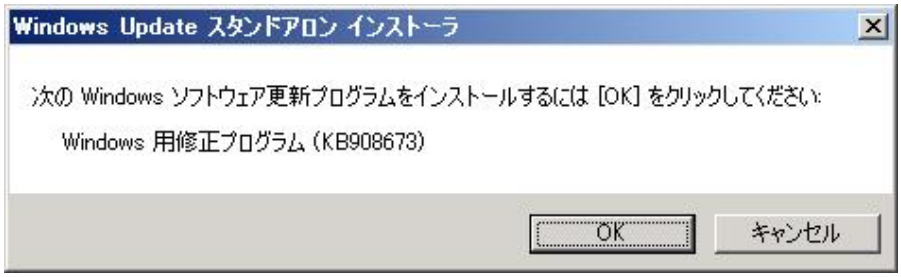
2.エクスプローラーもしくはコマンドプロンプトより、解凍後のファイルを実行してください。

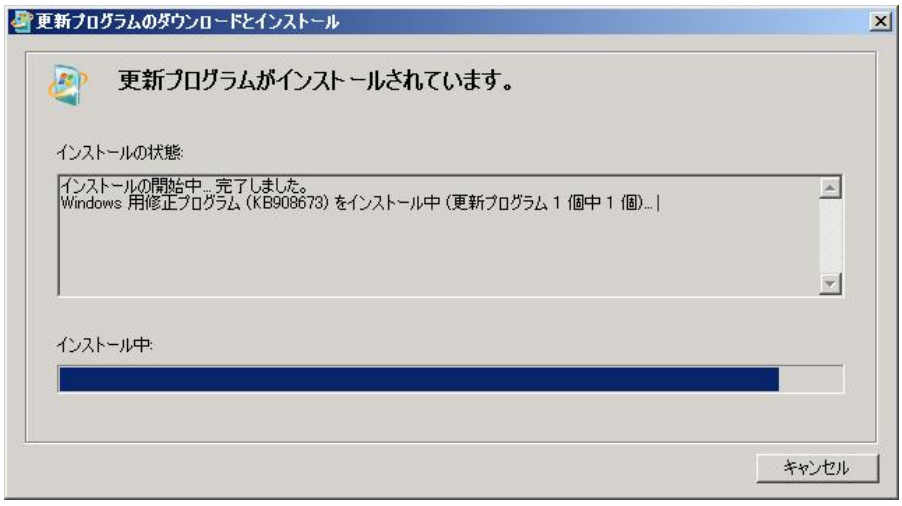
3.画面の指示にしたがい、インストールを行ってください。

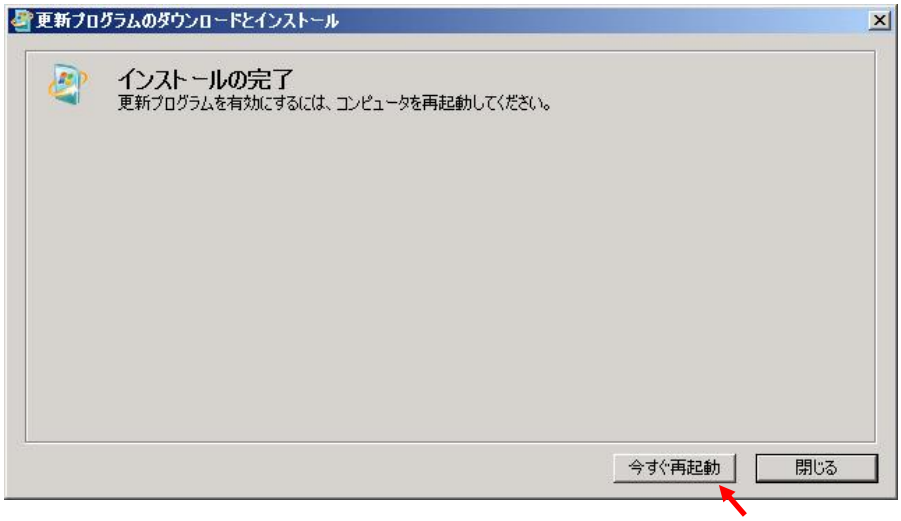
■Windows Server 2003 R2 SP2 の表示例



■Windows Server 2008 SP1 の表示例







4.インストールの終了後、システムを再起動してください。

5.hotfix の適用は以上で終了です。

3. hotfix 適用の確認手順

hotfix 適用後、モジュールがアップデートされているか確認します。

1.システムを起動し、Administrator ユーザーでログインします。

2.アップデートしたモジュールを確認します。
エクスプローラーを起動し、3 項に記載の各モジュールのプロパティ画面を開いて下さい。プロパティ画面の [全般] タブにて「更新日時」「サイズ」を、[バージョン情報] タブにて「ファイルバージョン」を確認し、各モジュールが 3 項のモジュールに置換されていることを確認して下さい。

重要

- タイムスタンプが 9 時間(タイムゾーンの設定によっては数時間)ずれる場合がありますが、サイズが同一である場合は問題ありません。
- hotfix 適用前にシステムに適用されていたモジュールのバージョンが、本 hotfix に含まれるモジュールのバージョンより新しい場合、モジュールは置換されません。
- サーバーの構成により usbohci.sys や usbuhci.sys に対応した USB ホストコントローラが存在しない場合がございます。この場合、ファイルが古いままとなりますが問題ございません。

3.アップデートしたモジュール情報

■Windows Server 2003

Windows Server 2003 SP1 (x86) / Windows Server 2003 R2 SP1 (x86)

名前	更新日時	サイズ(バイト)	バージョン	パス
usbehci.sys	2007/08/30 20:59	30,720	5.2.3790.3001	%SystemRoot%¥System32¥drivers
usbohci.sys	2007/08/30 20:59	17,536	5.2.3790.3001	
usbport.sys	2007/08/30 20:59	146,432	5.2.3790.3001	
usbuhci.sys	2007/08/30 20:59	20,992	5.2.3790.3001	

Windows Server 2003 SP1 (x64) / Windows Server 2003 R2 SP1 (x64)

名前	更新日時	サイズ(バイト)	バージョン	パス
usbehci.sys	2007/08/31 14:52	52,224	5.2.3790.3001	%SystemRoot%¥System32¥drivers
usbohci.sys	2007/08/31 14:52	26,880	5.2.3790.3001	
usbport.sys	2007/08/31 14:52	214,016	5.2.3790.3001	
usbuhci.sys	2007/08/31 14:52	32,896	5.2.3790.3001	

Windows Server 2003 SP2 (x86) / Windows Server 2003 R2 SP2 (x86)

名前	更新日時	サイズ(バイト)	バージョン	パス
usbehci.sys	2007/08/30 22:17	30,720	5.2.3790.4142	%SystemRoot%¥System32¥drivers
usbohci.sys	2007/08/30 22:17	17,536	5.2.3790.4142	
usbport.sys	2007/08/30 22:17	146,432	5.2.3790.4142	
usbuhci.sys	2007/08/30 22:17	20,992	5.2.3790.4142	

Windows Server 2003 SP2 (x64) / Windows Server 2003 R2 SP2 (x64)

名前	更新日時	サイズ(バイト)	バージョン	パス
usbehci.sys	2007/08/31 15:05	52,224	5.2.3790.4142	%SystemRoot%¥System32¥drivers
usbohci.sys	2007/08/31 15:05	26,880	5.2.3790.4142	
usbport.sys	2007/08/31 15:05	214,016	5.2.3790.4142	
usbuhci.sys	2007/08/31 15:05	32,896	5.2.3790.4142	

■Windows Server 2008

Windows Server 2008 SP1 (x86)

名前	更新日時	サイズ(バイト)	バージョン	パス
usbccgp.sys	2008/04/09 11:12	73,216	6.0.6001.22153	%SystemRoot%¥System32¥drivers
usbhub.sys	2008/04/09 11:12	194,560	6.0.6001.22153	
usbd.sys	2008/04/09 11:12	5,888	6.0.6001.22153	
usbehci.sys	2008/04/09 11:12	39,936	6.0.6001.22153	
usbohci.sys	2008/04/09 11:12	19,456	6.0.6001.22153	
usbport.sys	2008/04/09 11:12	226,304	6.0.6001.22153	
usbuhci.sys	2008/04/09 11:12	23,552	6.0.6001.22153	

Windows Server 2008 SP1 (x64)

名前	更新日時	サイズ(バイト)	バージョン	パス
usbccgp.sys	2008/04/09 11:41	95,744	6.0.6001.22153	%SystemRoot%¥System32¥drivers
usbhub.sys	2008/04/09 11:42	269,824	6.0.6001.22153	
usbd.sys	2008/04/09 11:41	7,680	6.0.6001.22153	
usbehci.sys	2008/04/09 11:41	49,664	6.0.6001.22153	
usbohci.sys	2008/04/09 11:41	24,064	6.0.6001.22153	
usbport.sys	2008/04/09 11:41	259,584	6.0.6001.22153	
usbuhci.sys	2008/04/09 11:41	29,184	6.0.6001.22153	

■Windows XP (x86)
Windows XP SP2 (x86)

名前	更新日時	サイズ(バイト)	バージョン	パス
usbehci.sys	2007/07/20 19:29	30,208	5.1.2600.3182	%SystemRoot%¥System32¥drivers
usbohci.sys	2007/07/20 19:29	17,152	5.1.2600.3182	
usbport.sys	2007/07/20 19:29	143,872	5.1.2600.3182	
usbuhci.sys	2007/07/20 19:29	20,608	5.1.2600.3182	

■Windows XP x64 Edition
Windows XP x64 Edition SP1

名前	更新日時	サイズ(バイト)	バージョン	パス
usbehci.sys	2007/08/31 14:52	52,224	5.2.3790.3001	%SystemRoot%¥System32¥drivers
usbohci.sys	2007/08/31 14:52	26,880	5.2.3790.3001	
usbport.sys	2007/08/31 14:52	214,016	5.2.3790.3001	
usbuhci.sys	2007/08/31 14:52	32,896	5.2.3790.3001	

Windows XP x64 Edition SP2

名前	更新日時	サイズ(バイト)	バージョン	パス
usbehci.sys	2007/08/31 15:05	52,224	5.2.3790.4142	%SystemRoot%¥System32¥drivers
usbohci.sys	2007/08/31 15:05	26,880	5.2.3790.4142	
usbport.sys	2007/08/31 15:05	214,016	5.2.3790.4142	
usbuhci.sys	2007/08/31 15:05	32,896	5.2.3790.4142	

■Windows Vista
Windows Vista (x86)

名前	更新日時	サイズ(バイト)	バージョン	パス
usbccgp.sys	2008/04/09 11:02	73,216	6.0.6000.20809	%SystemRoot%¥System32¥drivers
usbhub.sys	2008/04/09 11:03	194,048	6.0.6000.20809	
usbd.sys	2008/04/09 11:02	5,888	6.0.6000.20809	
usbehci.sys	2008/04/09 11:02	38,912	6.0.6000.20809	
usbohci.sys	2008/04/09 11:02	19,456	6.0.6000.20809	
usbport.sys	2008/04/09 11:02	224,768	6.0.6000.20809	
usbuhci.sys	2008/04/09 11:02	23,552	6.0.6000.20809	

Windows Vista SP1 (x86)

名前	更新日時	サイズ(バイト)	バージョン	パス
usbccgp.sys	2008/04/09 11:12	73,216	6.0.6001.22153	%SystemRoot%¥System32¥drivers
usbhub.sys	2008/04/09 11:12	194,560	6.0.6001.22153	
usbd.sys	2008/04/09 11:12	5,888	6.0.6001.22153	
usbehci.sys	2008/04/09 11:12	39,936	6.0.6001.22153	
usbohci.sys	2008/04/09 11:12	19,456	6.0.6001.22153	
usbport.sys	2008/04/09 11:12	226,304	6.0.6001.22153	
usbuhci.sys	2008/04/09 11:12	23,552	6.0.6001.22153	

Windows Vista (x64)

名前	更新日時	サイズ(バイト)	バージョン	パス
usbccgp.sys	2008/04/09 11:29	95,744	6.0.6000.20809	%SystemRoot%¥System32¥drivers
usbhub.sys	2008/04/09 11:29	268,800	6.0.6000.20809	
usbd.sys	2008/04/09 11:29	7,552	6.0.6000.20809	
usbehci.sys	2008/04/09 11:29	48,640	6.0.6000.20809	
usbohci.sys	2008/04/09 11:29	24,064	6.0.6000.20809	
usbport.sys	2008/04/09 11:29	258,048	6.0.6000.20809	
usbuhci.sys	2008/04/09 11:29	29,184	6.0.6000.20809	

Windows Vista SP1 (x64)

名前	更新日時	サイズ(バイト)	バージョン	パス
usbccgp.sys	2008/04/09 11:41	95,744	6.0.6001.22153	%SystemRoot%¥System32¥drivers
usbhub.sys	2008/04/09 11:42	269,824	6.0.6001.22153	
usbd.sys	2008/04/09 11:41	7,680	6.0.6001.22153	
usbehci.sys	2008/04/09 11:41	49,664	6.0.6001.22153	
usbohci.sys	2008/04/09 11:41	24,064	6.0.6001.22153	
usbport.sys	2008/04/09 11:41	259,584	6.0.6001.22153	
usbuhci.sys	2008/04/09 11:41	29,184	6.0.6001.22153	

レジストリー設定手順

レジストリー設定を実施し、USB ドライバーリトライを有効化します。レジストリー操作につきましては十分ご注意ください。必要に応じてレジストリーのバックアップ採取をお願いします。

1. 接続先 USB コントローラの特定

RDX 装置名の[**TANDBERG RDX USB Device**]が接続された USB コントローラを特定し、[**デバイス ID**]および[**インスタンス ID**]を確認します。

1.デバイスマネージャを起動します。
[スタート] - [管理ツール] - [コンピュータの管理] をクリックします。
[デバイスマネージャ]をクリックします。

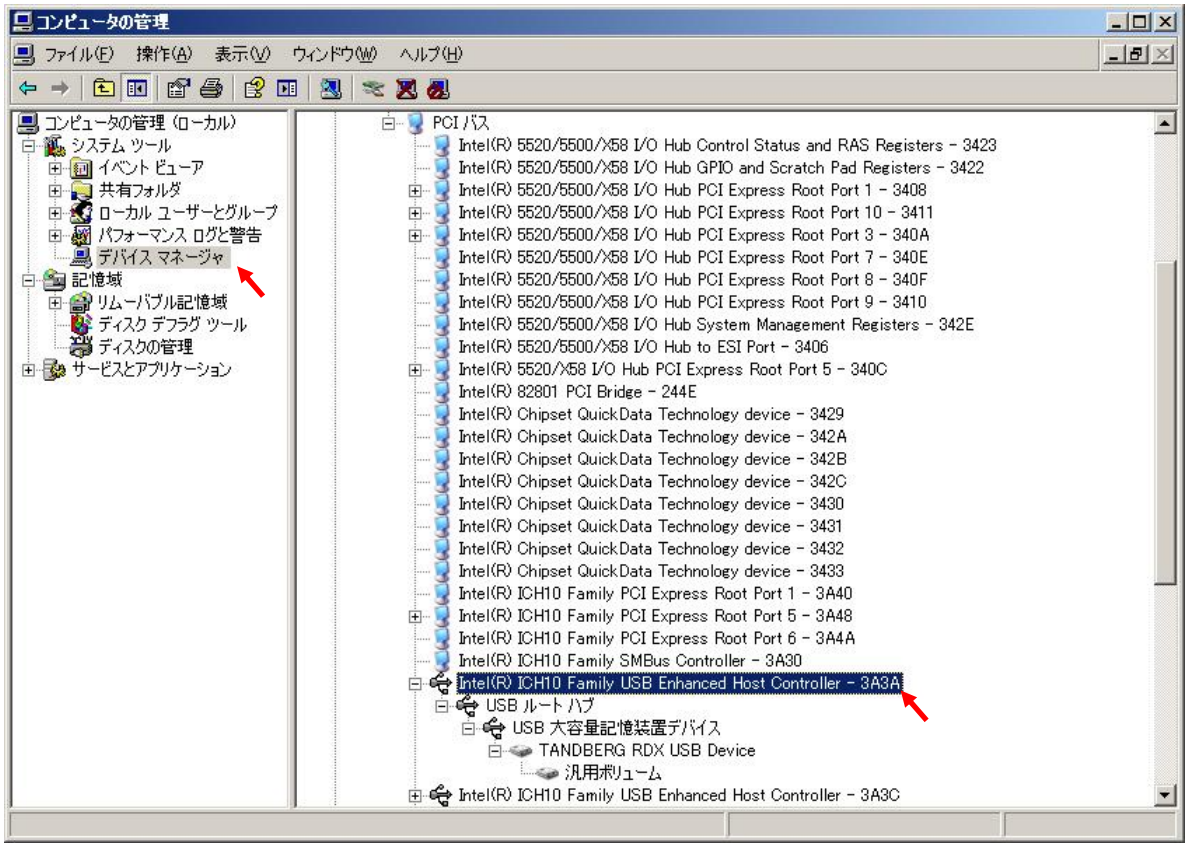
2.[表示(V)]-[デバイス(接続別(V)]にて表示を切り替えます。

3.[**USB Enhanced Host Controller**]を展開し、配下に[**TANDBERG RDX USB Device**]が接続された[**USB Enhanced Host Controller**]を見つけます。

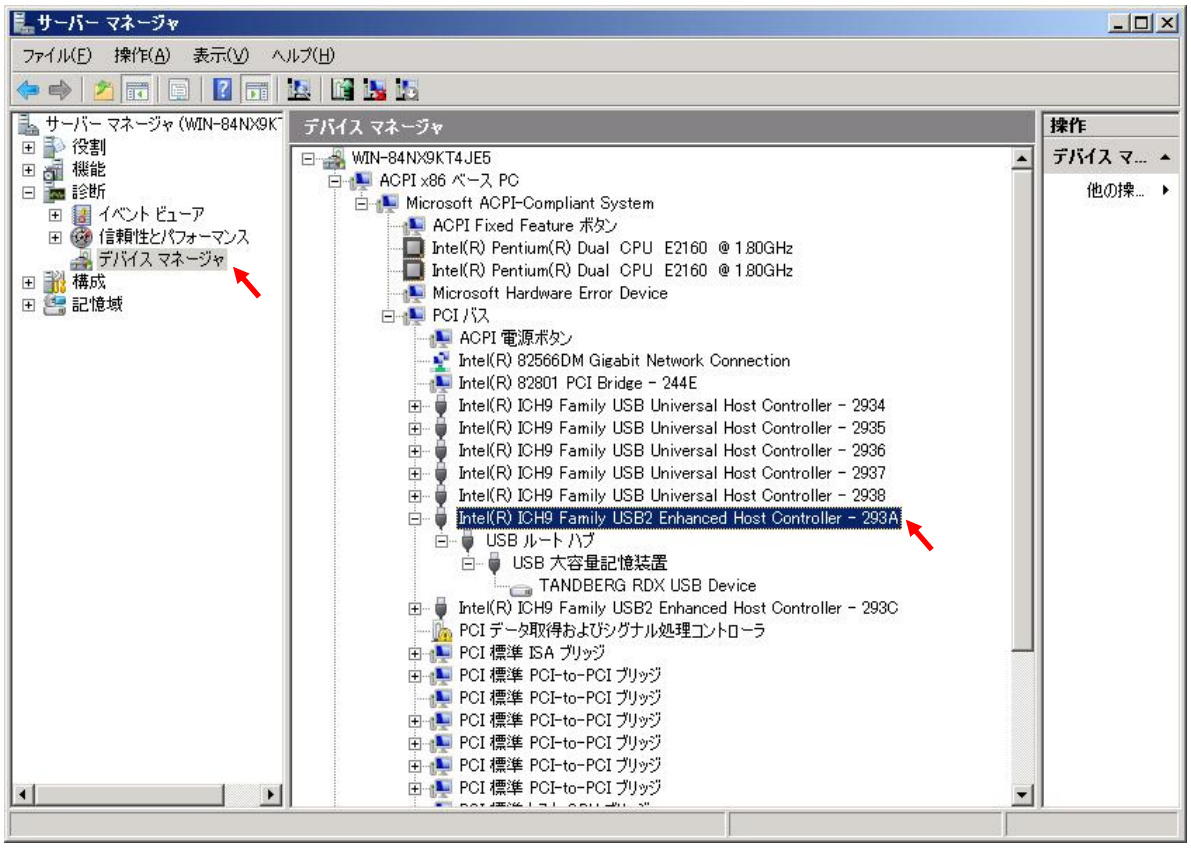
[***コンピュータ名***] ← (※1)
+ACPI [***マルチプロセッサ***] PC← (※2)
+Microsoft ACPI-Compliant System
+PCI バス
+[***Intel(R) ICH10 Family***] USB Enhanced Host Controller ← (※3)
+USB ルート ハブ
+USB 大容量記憶装置
+**TANDBERG RDX USB Device** ←RDX が接続されていることを確認

※1) サーバーのマシン名が表示されます。
※2) サーバー/OS の種類によって[***マルチプロセッサ***] 部の表示が異なります。
※3) サーバーの種類によって[***Intel(R) ICH10 family***] 部の表示が異なります。

■Windows Server 2003 R2 SP2 の表示例



■Windows Server 2008 SP1 の表示例

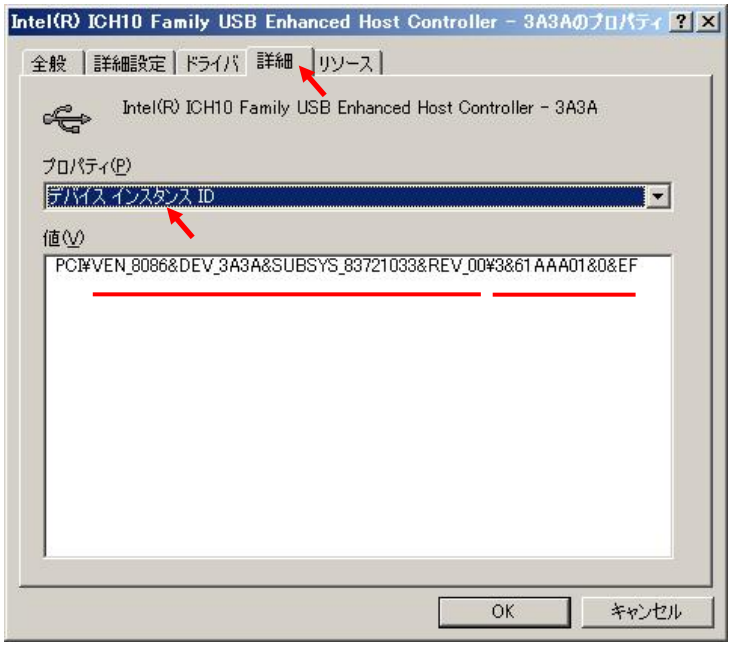


4.上記の[**USB Enhanced Host Controller**]をダブルクリックします。

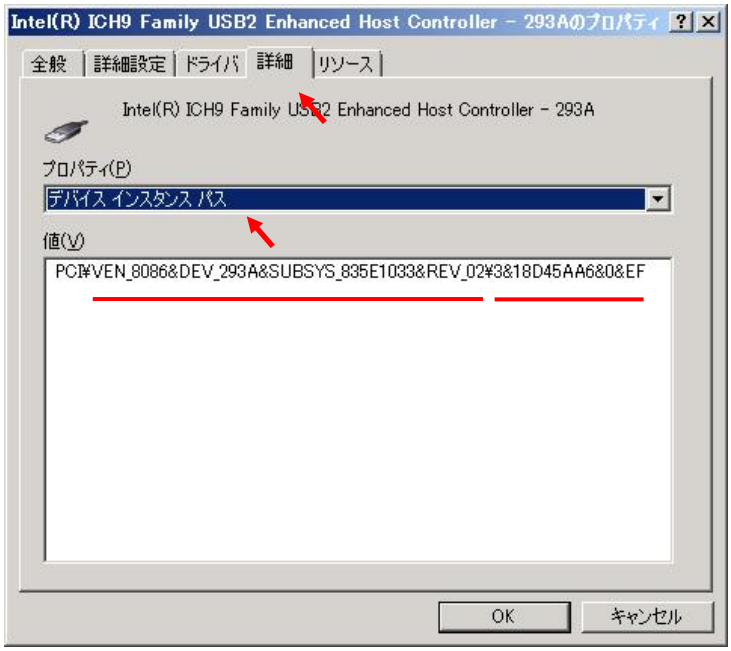
5.[詳細]タブを表示します。

6.[プロパティ(P)]の箇所で[**デバイス インスタンス ID**]を選択し、以下の値を記録します。
OS の種類によっては[**デバイス　インスタンス　パス**]と表示される場合があります。

■Windows Server 2003 R2 SP2 の表示例



■Windows Server 2008 SP1 の表示例



PCI¥VEN_8086&DEV_3A3A&SUBSYS_83721033&REV_00¥3&61AAA01&0&EF

デバイスID　　**インスタンスID**

重要

- デバイス ID、インスタンス ID はサーバーによって異なります。

2. レジストリーの設定

前項の確認で得られた[**デバイス ID**]および[**インスタンス ID**]を使用します。

1.レジストリーエディターを起動します。

[スタート] - [ファイル名を指定して実行]を選択し、[**regedit**]と入力後、[OK]ボタンをクリックします。

2.以下の場所に移動します。

HKEY_LOCAL_MACHINE

+SYSTEM

+CurrentControlSet

+Enum

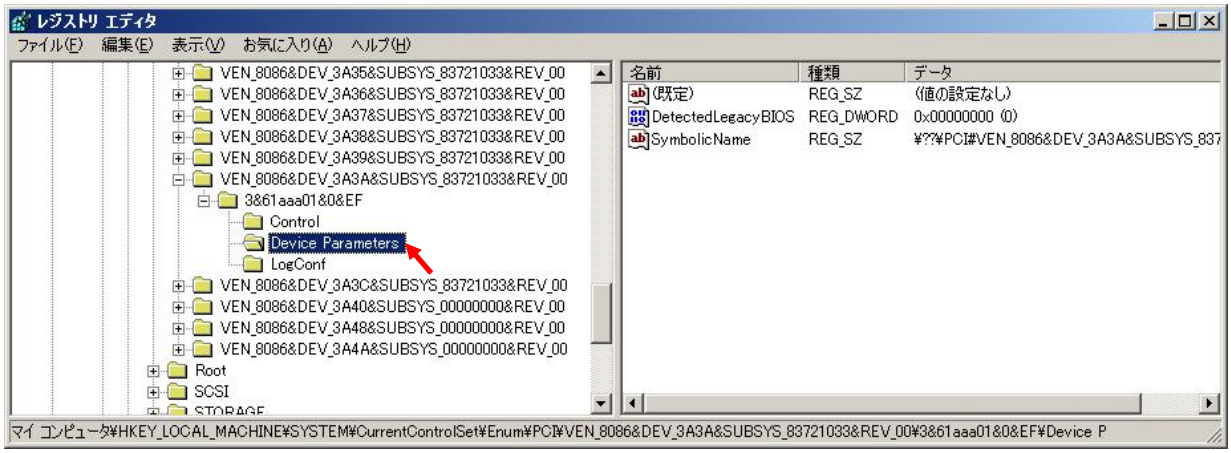
+PCI

+[**デバイス ID**] デバイスID

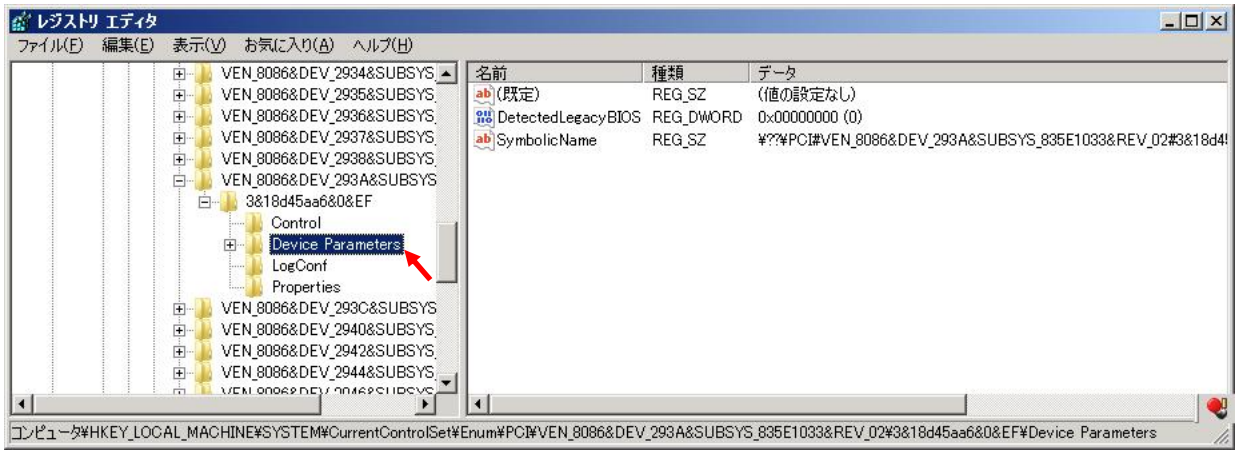
+[**インスタンス ID**] インスタンスID

+Device Parameters

■Windows Server 2003 R2 SP2 の表示例



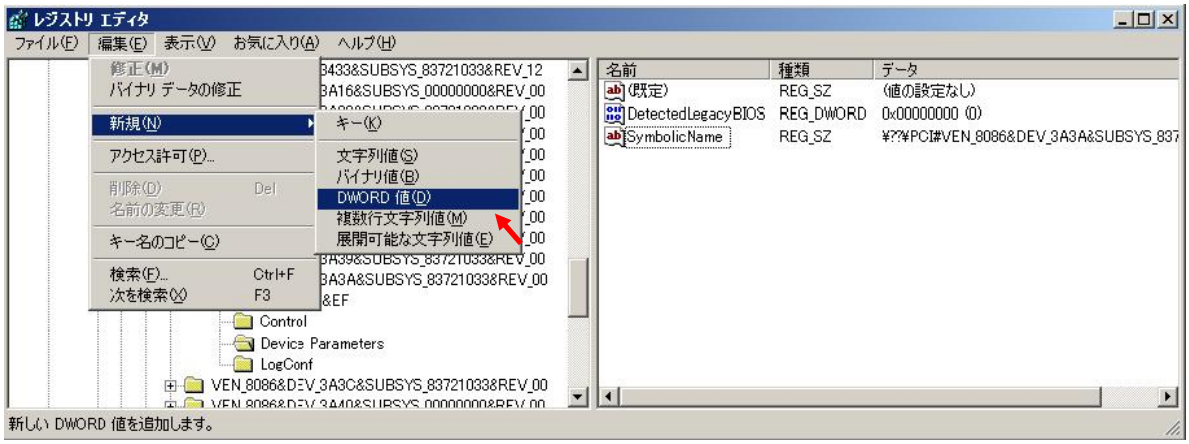
■Windows Server 2008 SP1 の表示例



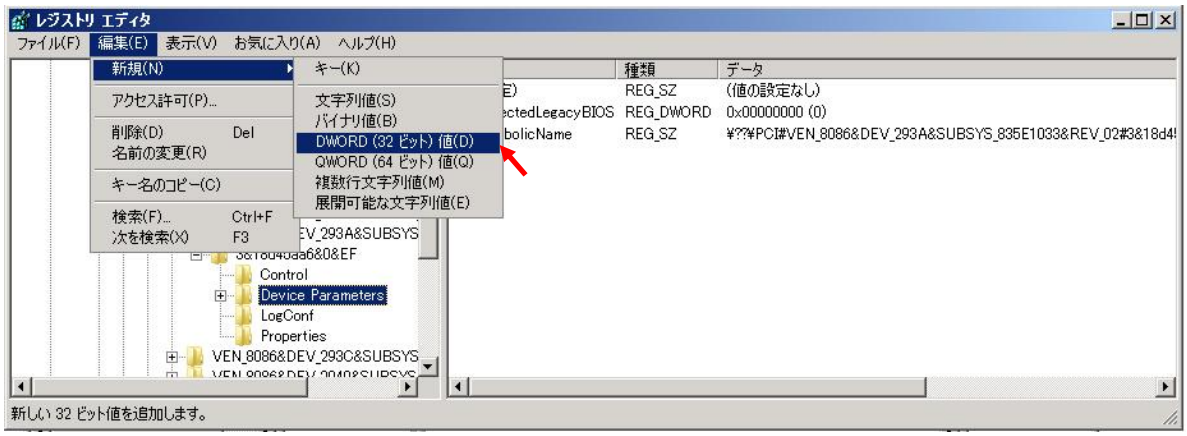
3.,[EnHcSoftRetry]を追加します。

レジストリーエディターの左ウインドで[**Device Parameters**]を選択した状態で、[編集(E)] - [新規(N)] - [DWORD 値(D)]をクリックし、[**EnHcSoftRetry**]と入力し[Enter]を入力します。

■Windows Server 2003 R2 SP2 の表示例

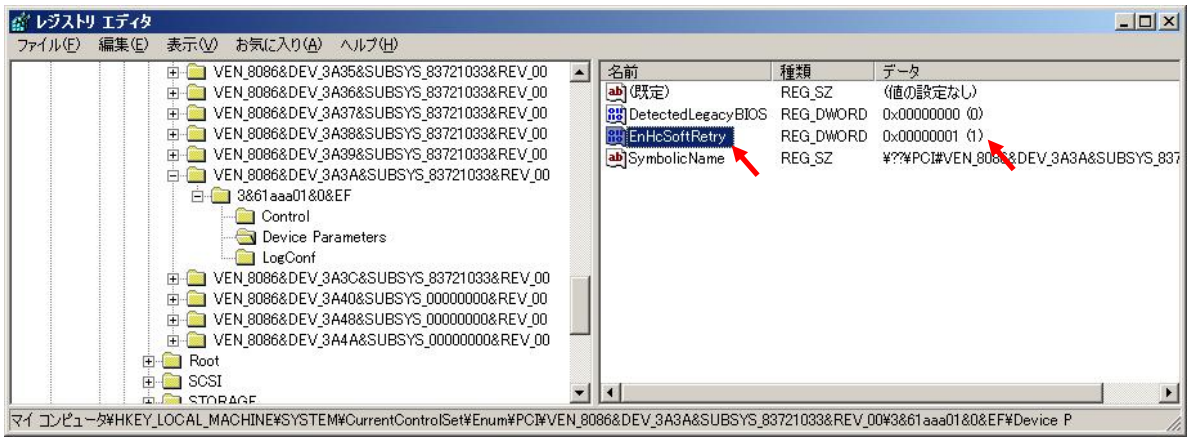


■Windows Server 2008 SP1 の表示例

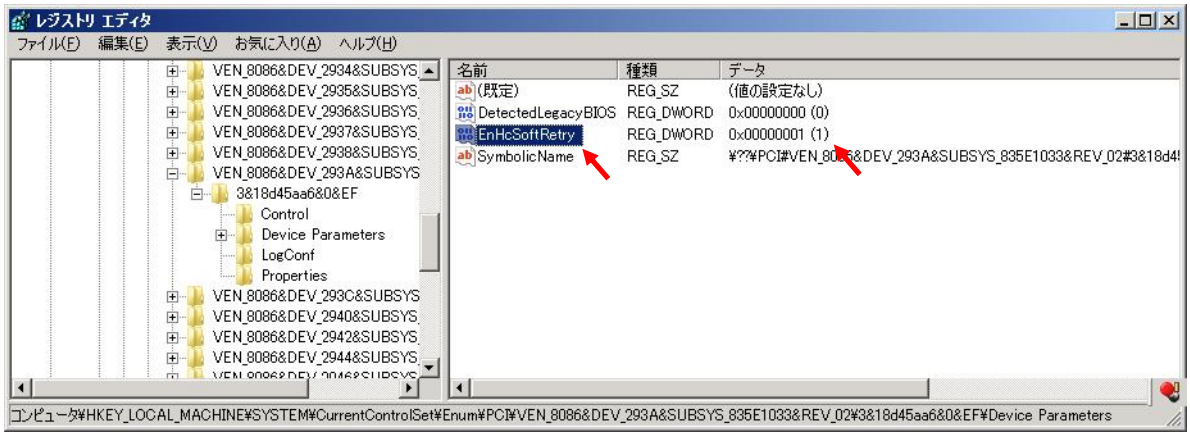


4.[**EnHcSoftRetry**]をダブルクリックし、値を[**1**]に設定します。

■Windows Server 2003 R2 SP2 の表示例



■Windows Server 2008 SP1 の表示例



5.システムを再起動します。

6.レジストリー設定手順は以上で終了です。

重要

- レジストリーの編集を行うときは、他のキーを誤って編集したり削除したりしないように気をつけてください。誤った操作が原因でシステムが不安定になったりシステムが起動できなくなったりする可能性があります。
- 万が一システムが起動できなくなった場合は、事前に取っておいたシステムのバックアップから復旧してください。復旧方法はご使用のバックアップソフトのマニュアルを参照して下さい。

システム復旧手順

hotfix 適用後にシステムを適用前の状態に戻す必要が生じた場合、以下の手順でアップデートモジュールを削除してください。(ただし本 hotfix の適用を行った後に別の hotfix を適用している場合、まずは適用した別の hotfix のアンインストールを行ってから、以下の手順を実行してください。)

1. レジストリーの削除

1. Administrator ユーザーでログインします。
2. レジストリーエディターを起動し、「レジストリー設定手順」の項にて設定した **[EnHcSoftRetry]** 値を削除します。
3. hotfix を適用している場合は次項(2.hotfix の削除)に進んでください。
4. hotfix を適用していない場合はシステムを再起動して、復旧手順は終了となります。

2. hotfix の削除

1. スタートボタンより「設定」 → 「コントロールパネル」 →「プログラムの追加と削除」を起動してください。
2. 「プログラムの追加と削除」画面の上にある「更新プログラムの表示」のチェックボックスをオンにしてください。
3. 適用した hotfix を選択し、「削除」ボタンをクリックしてください。
4. 削除ウィザードが起動されます。画面の指示に従って、アンインストール作業を進めてください。
5. 「完了」ボタンをクリックしてください。再起動が実行されます。
6. システムの復旧手順は以上で終了です。

RDX Utility のインストール

概要

RDX Utility は本装置のステータス確認等ができるツールです。

本装置を安定してご使用いただくために、RDX Utility のインストールをお願いします。

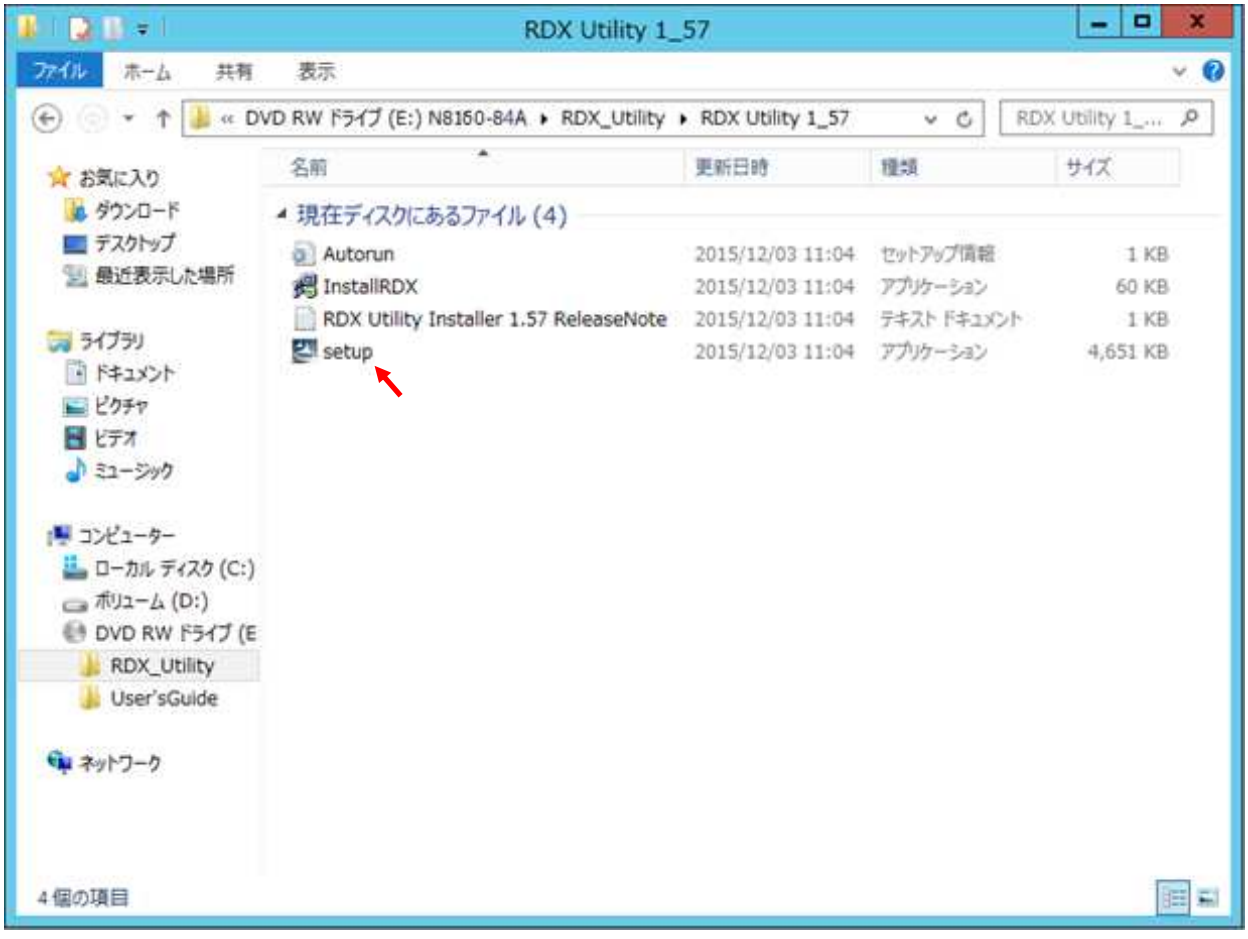
インストール手順

本体装置に RDX Utility をインストールします。RDX Utility のインストールには、添付の CD を使用します。あらかじめ用意しておいてください。(使用する容量 約 3.4MB)

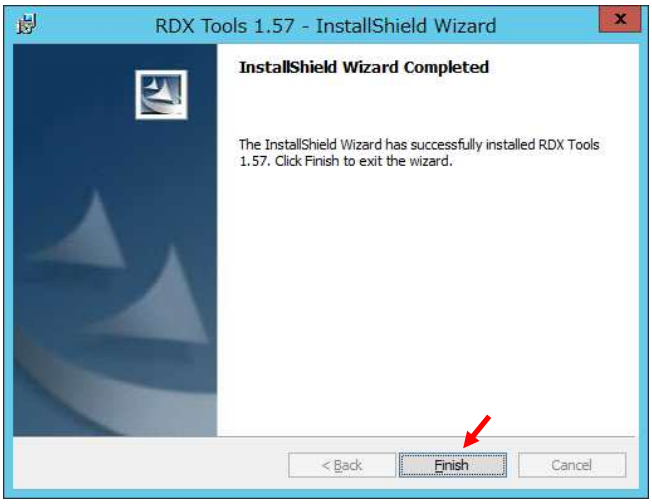
以下に、例として Windows Server 2012 でのインストール手順を記載します。他 OS でも基本的なインストール手順は変わりません。

●Windows Server 2012 で本製品をご使用のお客様

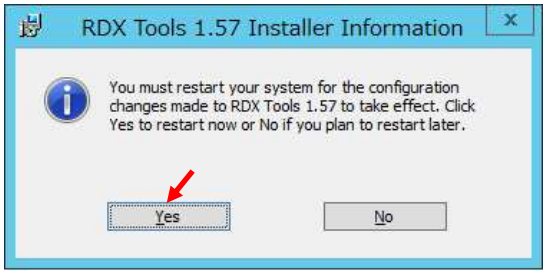
1. Administrator 権限でログインし、添付 CD 内の「RDX_Utility」のフォルダーを開き、「RDX Utility X_XX」のフォルダーをダブルクリックします。
2. 「RDX Utility X_XX」のフォルダーを開き、「setup.exe」ファイルを実行すると、インストールを開始します。画面の指示にしたがい RDX Utility をインストールしてください。



3.インストールが実行され、成功すると次のように表示されます。[Finish]をクリックします。



4.インストール終了後は、以下の画面が表示されます。「Yes」を選択して本体装置の再起動をしてください。



5.再起動後、[スタート]−>[すべてのアプリ]を開いて[RDX Utility]が追加されているのを確認します。
RDX Utility をアンインストールする場合には、[Uninstall RDX tools]を使用します。

以上で RDX Utility のインストールが完了しました。

重要

- RDX Utility をインストールするには、管理者としてログインするか、管理者権限を持っている必要があります。

重要

- Windows Sever 2022 では 3TB 以上のデータカートリッジでは RDX Manager のカートリッジのパーティショニングとフォーマットの機能は使えません。

ディスクモードについて

概要

本製品は、リムーバブルディスクドライブと固定ディスクドライブの機能を有します。
各ドライブの機能を使用するためには、ディスクモードの変更が必要です。

各ディスクモードについては以下を確認してください。
出荷時にはリムーバブルモードが設定されています。

ディスクモード	詳細
リムーバブルモード	データカートリッジをリムーバブルディスクとして扱うモードです。
固定ディスクモード (Fixed モード)	データカートリッジをローカルディスクとして扱うモードです。 本モードは、Windows Server Backup 専用モードになります。

重要

- 固定ディスクモードは、FW 0227 以降でサポートされます。

重要

- 固定ディスクモードでは、データカートリッジを Windows Server Backup において、サーバー全体のバックアップができるバックアップ専用のハードディスクとして設定可能になります。

モード切り替え方法

ディスクモードの切り替え方法について説明します。

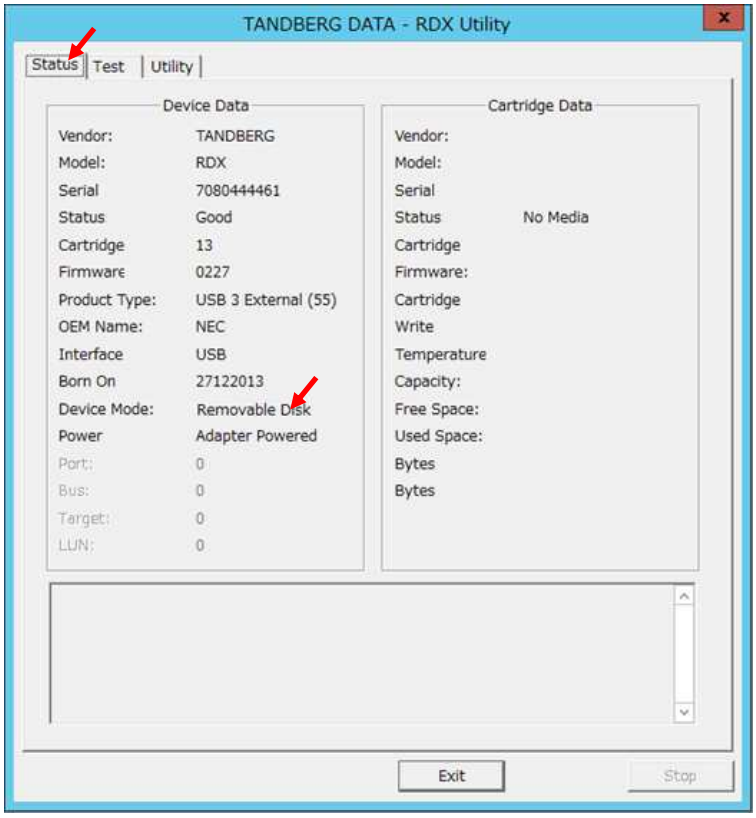
ディスクモードの切り替えには RDX Utility を使用してください。

重要

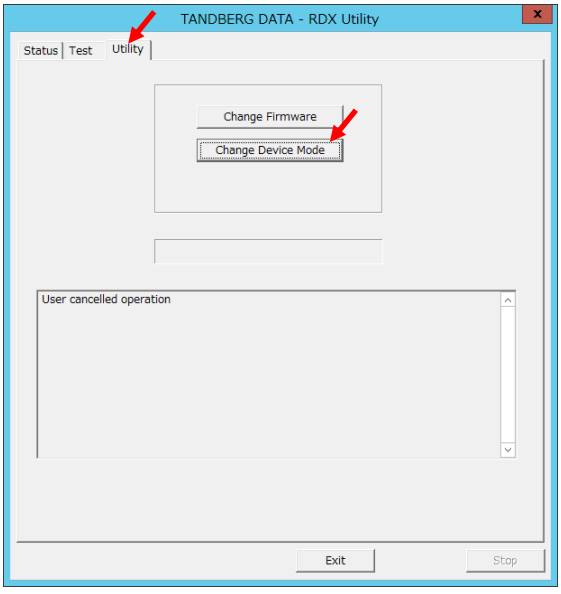
- ディスクモードを切り替える際は、本製品からデータカートリッジを取り出す必要があります。

■ RDX Utility による切り替え

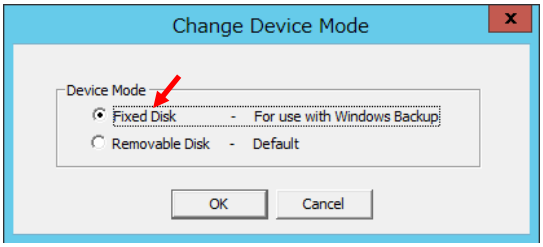
1. RDX Utility を起動します。
2. 現在のディスクモードを確認します。本製品を選択し、「Diagnostic」ボタンをクリックして、「Status」タグを選択して、「Device Data」の「Device Mode」を確認してください。
リムーバブルモードの場合は「Removable Disk」、固定ディスクモードの場合は「Fixed Disk」と表示されます。



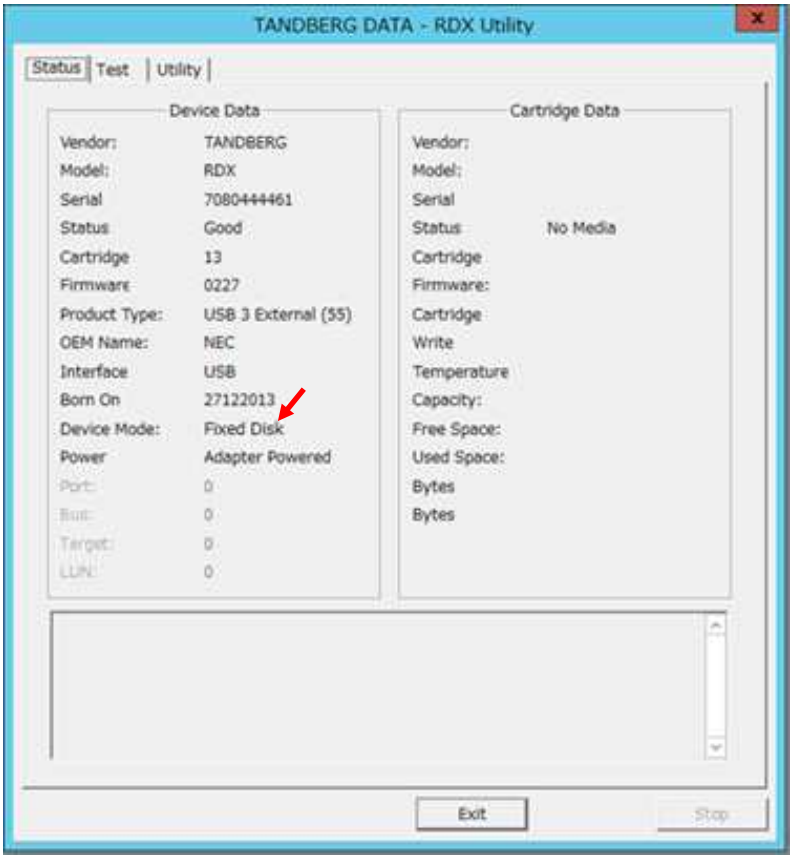
3. 「Utility」タグを選択し、「Change Device Mode」を選択してください。



4. 「Change Device Mode」ダイアログが表示されますので、設定したいディスクモードを選択して「OK」ボタンをクリックしてください。



5. 選択したモードに切り替わりますので、「Status」タグを選択して、「Device Data」の「Device Mode」が選択したモードになっていることを確認してください。



固定ディスクモードについて

固定ディスクモードは Windows Server Backup 専用のディスクモードになります。
Windows Server Backup を使用する場合に、固定ディスクモードでは『Windows Server Backup』の全ての機能を使用でき、データカートリッジにバックアップを取得することが可能になります。

重要

- Backup Exec、ARC serve 等のバックアップソフトウェアを使用する場合は固定ディスクモードで使用しないようにしてください。

重要

・固定ディスクモードでデータカートリッジを「バックアップ専用ハードディスク」として使用した場合、またはスケジュールバックアップでサーバー全体をバックアップ対象とした場合には、使用したデータカートリッジは「バックアップ専用ハードディスク」となり、リムーバブルモードでは使用できなくなりますので、ご注意ください。

・Windows Sever 2012 以降の OS では、GPT パーティションで初期化されたデータカートリッジを Windows Server Backup で「バックアップ専用ハードディスク」として使用、またはスケジュールバックアップでサーバー全体をバックアップ対象とすることをサポートしています。

固定ディスクモードでのデータカートリッジの取り出し

ここでは固定ディスクモード時のデータカートリッジの取り出し方を説明します。

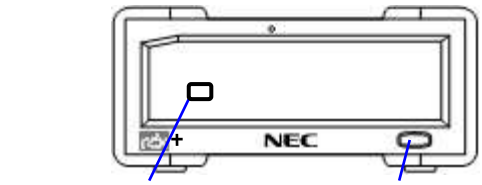
通常時での取り出しは Windows OS 上からの取り出し方法で取り出してください。Windows OS 上からの取り出し方法で取り出せない時のみ、イジェクトボタン長押しによる取り出しを行ってください。

■ Windows OS 上からの取り出し

1. Windows OS 上から、「ハードウェアの安全な取り出し」をクリックすることでデータカートリッジが排出され、ドライブの接続は保持されます。

■ イジェクトボタン長押しによる取り出し

1. データカートリッジのカートリッジ LED が点滅していないことを確認してください。
2. Windows Server Backup のステータスから実行中の Job が無い事を確認してください。
3. イジェクトボタンを 5 秒以上押し続けてください。
4. カートリッジ挿入口からデータデータカートリッジが排出されたら、データカートリッジの両側をしっかりと持ち、データカートリッジを取り出してください。



カートリッジ LED　　イジェクトボタン

重要

- 固定ディスクモードでは、通常のイジェクトボタン押下によるデータカートリッジの排出は無効になります。
- Windows Server 2003 では Windows OS 上からの安全な取り出しができないため、イジェクトボタンの長押しでデータカートリッジを取り出してください。

運用状況お客様記入シート

本製品を保守・管理する際に必要な情報を記録しておくメモ欄です。

項目	記入欄
製品本体モデル名	
オペレーティングシステム（OS）（名称、バージョン、サービスパック／パッチの適用状況）	
バックアップソフト （名称、バージョン、サービスパック／パッチの適用状況）	
製品設置環境 （温度、湿度、ホコリの状況など）	
データカートリッジ種類 （容量、型番など）	
データカートリッジ使用状況 （使用回数や使用開始月の管理方法など）	
データカートリッジの管理状況	

トラブルシューティングチェックリスト

本製品が思うように動作しない場合は、修理に出す前に以下のチェックリストの内容にしたがって、本製品をチェックしてください。リストにある症状に当てはまる項目があるときは、処置にしたがってください。

項番	症状	処置
1	❑ ドライブの電源が入らない。LED が点灯しない。	❑ ドライブ及び本体装置に USB ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。 ❑ USB ケーブルの接触不良が無いか、挿抜して確認してください。
2	❑ ドライブが正しく認識されない。	❑ 本体装置またはドライブに USB ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。
3	❑ データカートリッジが正しく認識されない。カートリッジ LED が点灯しない。	❑ バックアップソフトの設定が正しく行われているか確認してください。 ❑ データカートリッジが正しくセットされているのを確認してください。 ❑ データカートリッジを交換してください。
4	❑ 正しくバックアップができない。	❑ データカートリッジのライトプロテクトが書き込み不可設定になっていないか確認してください。 ❑ バックアップソフトの設定が正しく行われているか確認してください。 ❑ 複数のユーティリティーからデータカートリッジにアクセスしていなか確認してください。 ❑ データカートリッジを交換してください。
5	❑ データカートリッジを取り出せない。	❑ OS がデータカートリッジを認識中にイジェクトボタンを押して取り出そうとしていませんか。OS がイジェクトボタンからの取出しを禁止する場合があります。ソフト上の操作からデータカートリッジを取り出してください。(詳細は27ページ「データカートリッジの取り出し(通常時)」を参照ください。 ❑ 非常時には、製品前面のイジェクトボタン長押し、もしくは「非常取り出し用ホール」からデータカートリッジを取り出し可能です。手順は29ページ「データカートリッジの取り出し(非常時)」を参照ください。
6	❑ OS が起動しない。	❑ ドライブにデータカートリッジをセットしたまま運用をする場合、OS の起動が失敗する場合があります。ドライブのブート順位が OS 起動デバイスより高くなっていないか、本体装置の BIOS 設定を確認してください。
7	❑ Windows Server 2016 以降、3TB 以上のデータカートリッジの交換でドライブレターが変わる。	❑ ドライブレターは OS が自動的に割り当てるので、データカートリッジ交換時に、変わる場合があります。 ❑ 最新の RDX Manager にはドライブレター固定の機能があります。RDX Manager は WEB よりダウンロードできます。 URL:https://www.support.nec.co.jp/PSHome.aspx
8	❑ カートリッジのパーティショニングとフォーマットが出来ない。	❑ Windows Sever 2022 では 3TB 以上のデータカートリッジでは RDX Manager のカートリッジのパーティショニングとフォーマットの機能は使えません。

N8160-99
外付 RDX ドライブユーザーズガイド

2016 年 7 月　　初版
2022 年 5 月　第 2 版
2025 年 5 月　第 3 版

日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目 7 番 1 号
TEL(03)3454-1111（大代表）

© NEC Corporation 2016-2025
日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
本書の内容は予告なく変更することがあります。